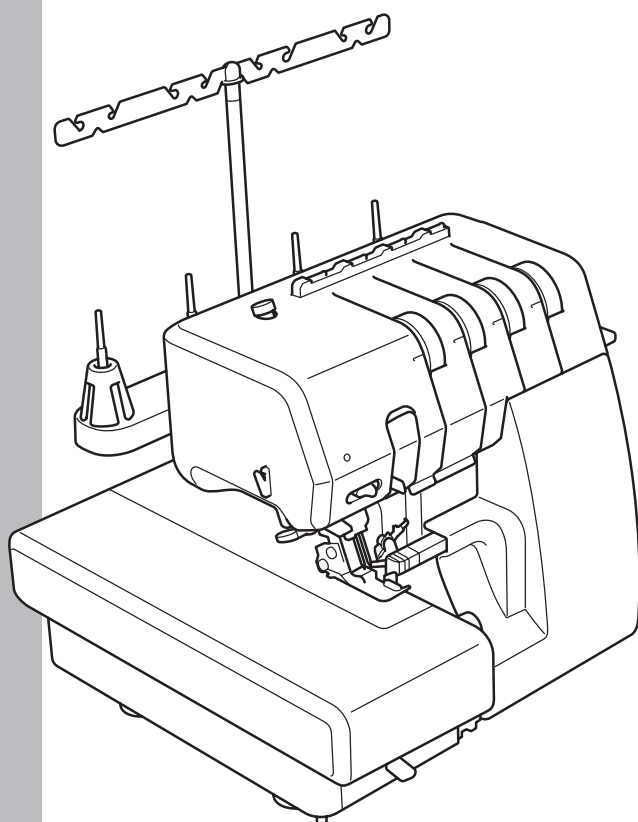


brother

取扱説明書

ロックミシン

LOB2001 シリーズ





ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、正しくお使いください。
本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。
最新の取扱説明書は、プラザーのサポートサイト (<https://s.brother/cptaa/>) でご覧いただけます。

はじめに









このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために








取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
























取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

 特定しない禁止事項	 特定しない危険通告	 特定しない義務行為
 手を針に近づけてはいけません	 分解してはいけません	 感電の危険があります
 火災の危険があります	 電源プラグを抜いてください	





本製品を安全にお使いいただくために、以下のことから守ってください。

 警告	
	取扱説明書に記載されている用途にのみご使用ください。
  	必ず一般家庭用電源 AC100V の電源で使用してください。それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障・事故などの原因となります。
 	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



















警告

  	<p>電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。</p>
  	<p>以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障・事故などの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ 糸を通したり、針を交換したりするとき ・ 針の周辺で調整を行うとき ・ ミシンのお手入れをするとき ・ 使用中に停電したとき ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・ 雷が鳴りはじめたとき
  	<p>電源コードまたは電源プラグを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、電源コードをたばねないでください。電源コードまたは電源プラグに重い物を載せたり、加熱したりすると破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご連絡ください。</p>
   	<p>ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
  	<p>万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
  	<p>万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。</p>
 	<p>爆発性および導電性の粉塵が発生する環境では使用しないでください。爆発や火災の原因となります。</p>
 	<p>スプレー製品などを使用している部屋や酸素が供給されている場所では使用・保管をしないでください。また、本製品を清掃する際にスプレー製品を使用しないでください。やけどや火災、爆発の原因となります。</p>























⚠ 警告

	お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	この製品には小さな部品が含まれています。誤って飲み込むことを防ぐために、子供の手の届かない場所に保管してください。
	ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
	照明装置が破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

	ミシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
  	フットコントローラーは付属のものを使用してください。感電や発熱による火災の原因となります。
  	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチの○側を押して電源を切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
  	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	針の下に指などを入れないでください。けがをするおそれがあります。
	ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針・プーリー・メスなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	損傷したり誤った針板を使用しないでください。針が折れる原因となります。
	押えや針などの部品を交換／取り付けする際は、必ず取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。
	糸通しに関する操作については、取扱説明書の通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

⚠ 注意

  	<p>直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなど、火の気のある物のそばや温度の高いところでは使用・保管しないでください。ミシンの使用温度は0℃～40℃です。 ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けたり、縫製中の衣類が発火して火災・感電の原因となります。</p>
	<p>温度や湿度の高い所や急激に変化する所での使用や保管はさけてください。</p>
	<p>ほこりや油煙が多い所での使用や保管はさけてください。</p>
 	<p>野外での使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れた時はお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。</p>
 	<p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。</p>
 	<p>ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。</p>
 	<p>長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。</p>
  	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。</p>
  	<p>お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・けがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。</p>
	<p>フットコントローラーの上に物を置かないでください。けが・故障の原因となります。</p>
 	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体の重さは約 9.8kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因となります。</p>
	<p>ミシン本体の掃除に、ベンジン、シンナーなどの薬品を使用しないでください。ミシンが故障する原因となります。</p>

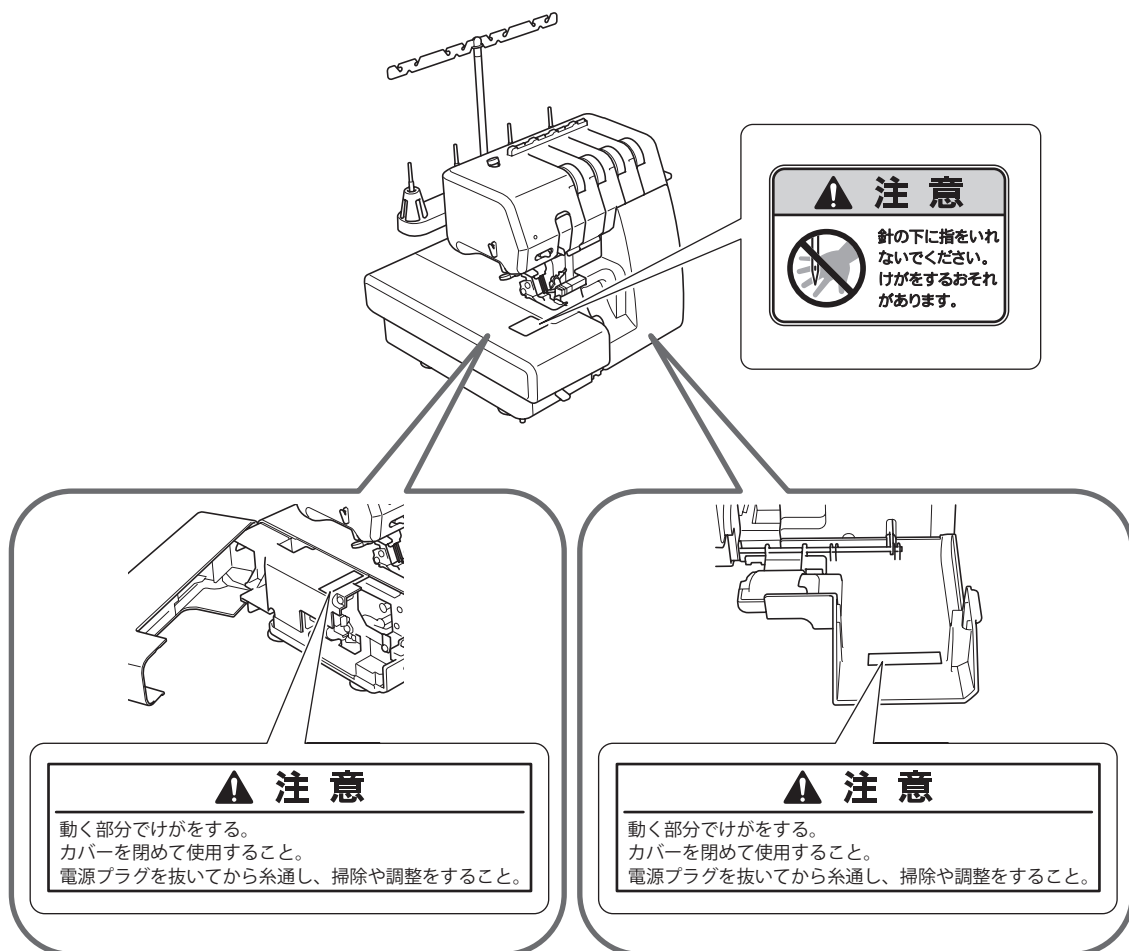
🙏お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。日本国外では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がございましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保證できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告表示について

ミシン本体には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

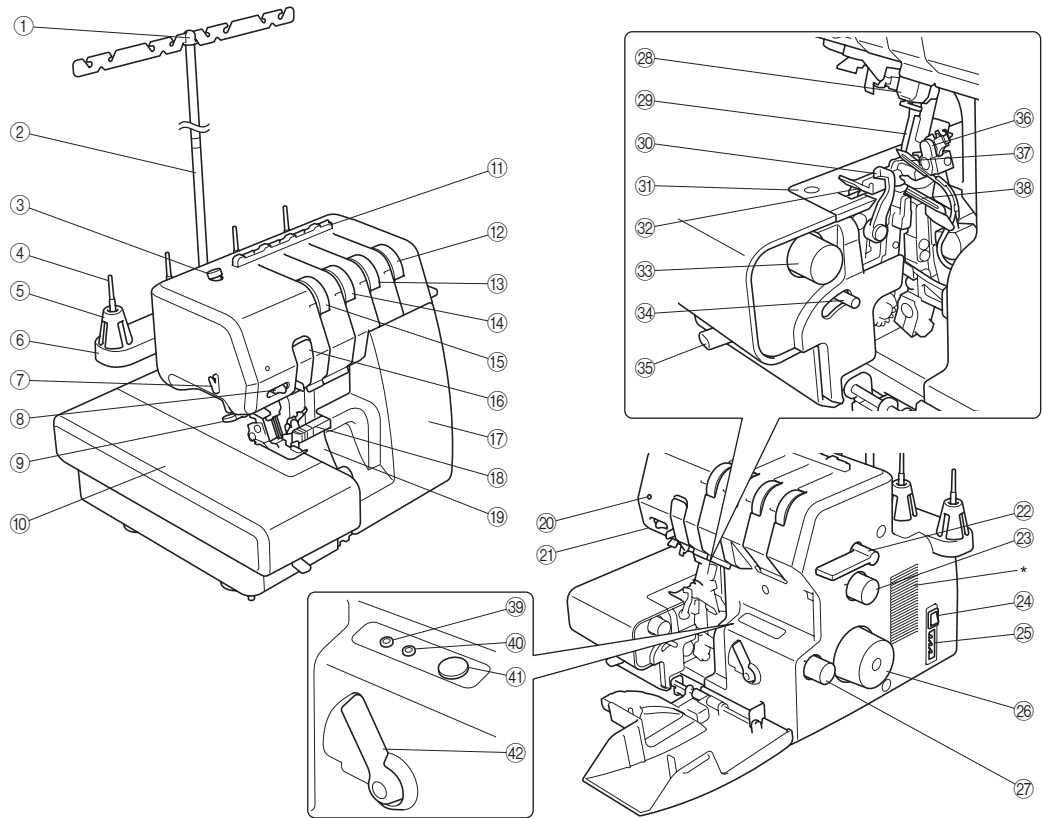
万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



目次

第1章 各部の名称と基本操作	6
アクセサリ	7
ミシンをスタートさせる	8
プーリーの使い方	8
前カバーとメスカバーの開き方／閉め方	8
押え上げレバーの使い方	9
押えの取り外し／取り付け	9
トリムボックスの使い方	10
上メスの固定／固定の解除	10
ぬい目の長さを調節する	10
かがり幅を調節する	11
差動送りを調節する	11
押え圧を調節する	11
糸調子を調節する	12
糸調子の調整例	12
ミシン針	14
ミシン針の交換	14
第2章 糸通しの前準備	15
糸かけの準備	15
糸こまキャップ	15
糸こまネット	15
第3章 糸通し	16
ルーパー糸通しの前に	16
ルーパー糸通し時の注意	16
下ルーパーに糸を通す	17
上ルーパーに糸を通す	17
ルーパー糸通しが終わったら	18
エア糸通しで糸が通らない場合	18
針糸の糸通し準備	19
左針に糸を通す	20
右針に糸を通す	21
第4章 布地、糸、ミシン針対応表	22
第5章 ぬってみましょう	23
安全装置	23
試しぬいをする	23
からぬいをする	23
ぬい始める	24
ぬい終わる	24
ぬい始めと終わりのほつれ止め	24
縫製中に糸切れしたとき	25
ステッチを選ぶ	25
細口ツクぬい、巻きぬいをする	26
2本糸でぬう	28
第6章 困ったときは	30
第7章 お手入れ	32
掃除	32
布板カバーの開け方	32
エア糸通しパイプの掃除	32
注油	32
メスの交換	32
持ち運び	32
第8章 付属品／別売品の押えの使い方	33
まつりぬい押え（付属品）	33
パイピング押え（付属品）	35
ギャザー押え（付属品）	36
テープ付け押え（別売品）	37
パール付け押え（別売品）	38
仕様	39
ミシン設定メモ	40

第1章 各部の名称と基本操作



- ① 糸かけ
- ② 糸かけ棒
- ③ 押え圧調節ねじ
- ④ 糸たて棒
- ⑤ スプールクッション
- ⑥ 糸立て台
- ⑦ 糸切り
- ⑧ 針穴糸通し切替レバー
- ⑨ 針穴糸通しレバー
- ⑩ 布板カバー
- ⑪ 糸ガイド
- ⑫ 下ルーパー用糸調子ダイヤル
- ⑬ 上ルーパー用糸調子ダイヤル
- ⑭ 右針用糸調子ダイヤル
- ⑮ 左針用糸調子ダイヤル
- ⑯ 糸取りカバー
- ⑰ 前カバー
- ⑱ ぬいしろガイド
- ⑲ メスカバー
- ⑳ エラー表示 LED
- ㉑ 照明用 LED (ランプカバー内部)

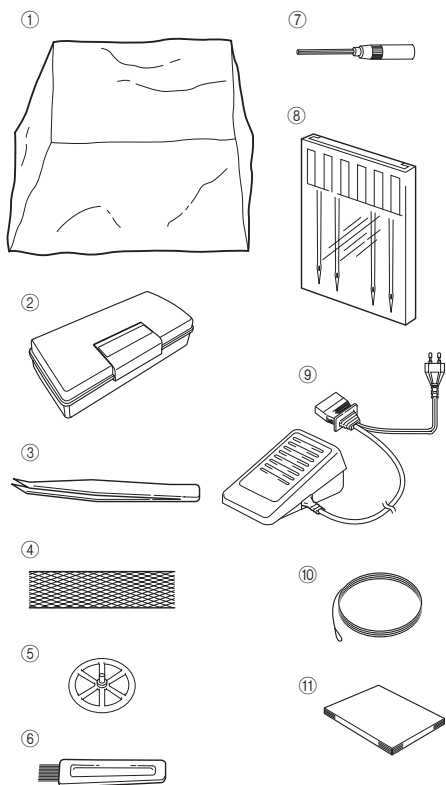
- ㉒ 押え上げレバー
- ㉓ 送りピッチ調節ダイヤル
- ㉔ 電源スイッチ
- ㉕ フットコントローラーソケット
- ㉖ プーリー
- ㉗ 差動送り調節ダイヤル
- ㉘ 針締めねじ
- ㉙ ミシン針
- ㉚ 上メス
- ㉛ 針板
- ㉜ 押え
- ㉝ かがり幅調節ダイヤル
- ㉞ ステッチ切替レバー
- ㉟ メスカバー
- ㊱ 2本糸切替板
- ㊲ 上ルーパー
- ㊳ 下ルーパー
- ㊴ 上ルーパー糸挿入口
- ㊵ 下ルーパー糸挿入口
- ㊶ エア糸通しボタン
- ㊷ エア糸通し切替レバー

* 換気口 (6か所)

アクセサリ

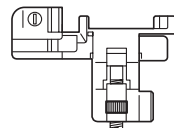
■ 付属品

- ① ミシンカバー
- ② アクセサリーボックス
- ③ ピンセット
- ④ 糸こまネット (2個)
- ⑤ 糸こまキャップ (4個)
- ⑥ ミシンブラシ
- ⑦ ドライバー
- ⑧ ミシン針 #12 (2本)、#14 (2本)
- ⑨ フットコントローラ
- ⑩ 糸通し用ワイヤー
- ⑪ 取扱説明書

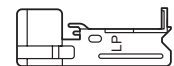


■ 付属品 (押え)

- ⑫ まつりぬい押え (型番: LF001)



- ⑬ パイピング押え (型番: LF005)

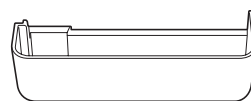


- ⑭ ギャザー押え (型番: LF006)



■ 付属品 (押え以外)

- ⑮ トリムボックス

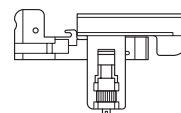


■ 別売品 (押え)

- ⑯ テープ付け押え (型番: LF002)

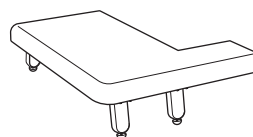


- ⑰ パール付け押え (型番: LF004)



■ 別売品 (押え以外)

- ⑱ ワイドテーブル (型番: WTL3)



ミシンをスタートさせる

⚠注意

⚠ フットコントローラーは、必ず付属のものを使用してください。

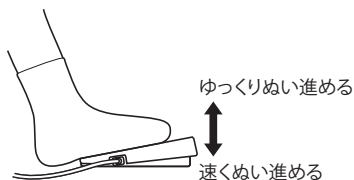
■ ミシンの電源を入れる

1. ミシンの右側面にあるフットコントローラーソケットにフットコントローラーを接続します。電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
2. 電源スイッチの1側を押して、電源を入れます。電源を切るときは、○側を押します。



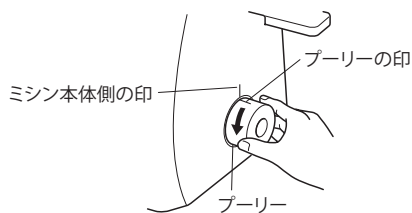
■ ミシンをスタートさせる

フットコントローラーを浅く踏み込むとゆっくり、深く踏み込むと速くぬい進みます。フットコントローラーから足を離すと、ミシンは止まります。



プーリーの使い方

プーリーは、必ず手前 (矢印方向) に回します。これは家庭用ミシンと同じ方向です。

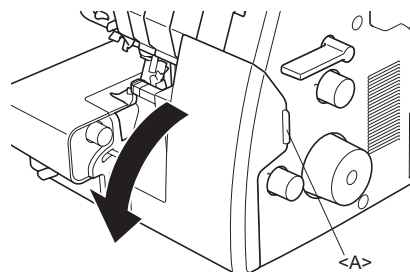


ミシンに糸を通す前に、プーリーの印とミシン本体側の印の位置を合わせてください。

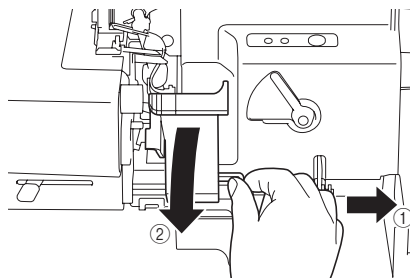
前カバーと メスカバーの開き方／閉め方

前カバーとメスカバーは、ミシンに糸を通すときなどに開きます。

前カバーを開くときは、<A> の箇所をつまんで手前に倒します。



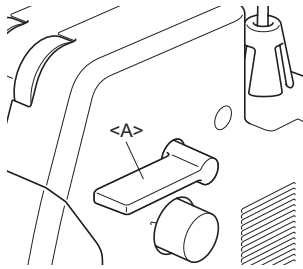
メスカバーを開くときは、メスカバーを右にスライドさせ ①、手前に倒します ②。



前カバーを閉めると、メスカバーも同時に閉まります。

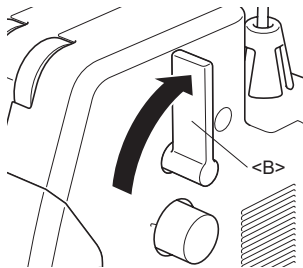
押え上げレバーの使い方

通常の使用時は、押え上げレバーを<A>の位置にします。

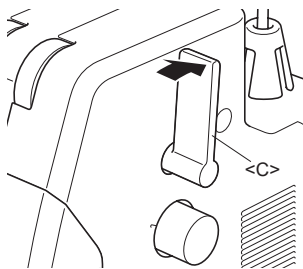


押えを上げるときは、押え上げレバーをの位置に上げます。

糸調子ダイヤルのそばの糸調子皿が開くので、糸通しをするときはこの位置にしてください。



押えを交換する場合や厚い布をぬう場合など、押えと針板のすき間を大きくする場合は、押え上げレバーをさらに動かして<C>の位置にします。<C>の位置で押え上げレバーから手を離すと、の位置に戻ります。



押えの取り外し／取り付け

1. 電源スイッチを切ります。
2. 押え上げレバーを上げます ①。
3. プーリーを手前に回し、プーリーの印とミシン本体側の印の位置を合わせます ②。(第1章「プーリーの使い方」参照)

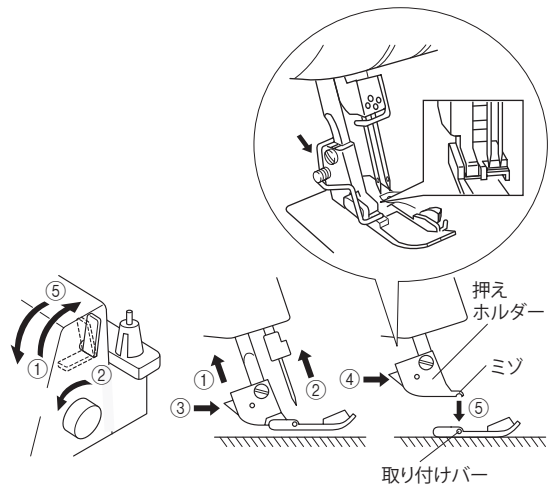
■ 押えの取り外し

押えホルダーの後ろのボタンを押すと ③、押えが外れます。

押え上げレバーをさらに上げ、押えを一番高い位置まで上げて押えを取り外します。取り外した押えは安全な場所に保管してください。

■ 押えの取り付け

押えを押えホルダーの真下に置き、押えホルダーの底のミゾと、取り付ける押えの取り付けバーの位置を合わせます。押えホルダーの後ろのボタンを押しながら ④、押え上げレバーを下げて押えを取り付けます ⑤。

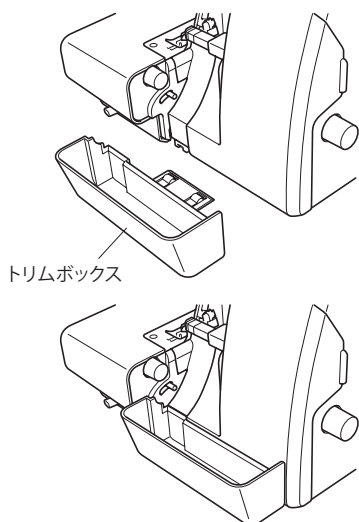


トリムボックスの使い方

⚠注意

- フットコントローラーをトリムボックスに入れたまま、ミシンを持ち運ばないでください。

トリムボックスは、ぬっているときに出る布の切れ端や糸くずを受けるために使います。



取り付け方

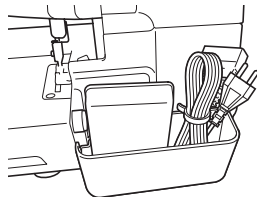
トリムボックスが前カバーにあたるまで挿入します。

取り外し方

トリムボックスをゆっくりと引き出します。

📌お知らせ

トリムボックスは、ミシンを使用していないときにはフットコントローラーの収納に使用することもできます。



上メスの固定／固定の解除

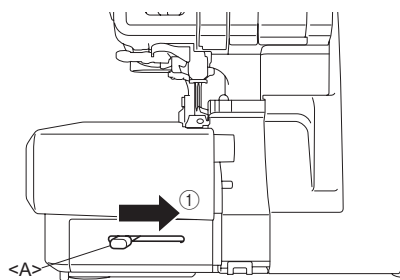
⚠注意

- メスに触れないでください。
- 上メスの固定と固定の解除は、ミシンが完全に停止している状態で行ってください。停止していない状態で行くと、布がミシンに巻き込まれて針が破損したりして、ミシンの破損や故障、けがの原因になります。

上メスを使用するときは、メス切替レバーを <A> の位置にします。

布を切らずにぬうときは、メス切替レバーを右にスライドさせ ①、上メスを固定します。

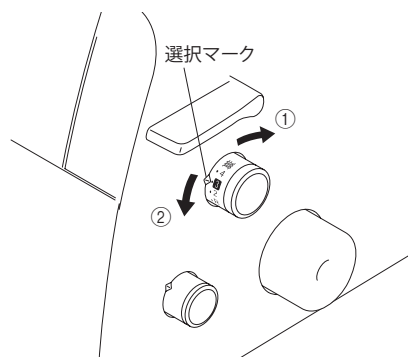
固定した上メスはガイドとしても利用できます。



ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さは、通常 3mm に設定されています。

ぬい目の長さは、ミシン右側面の送りピッチ調節ダイヤルで調節します。



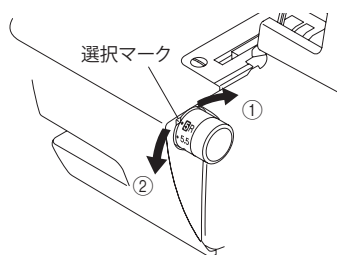
- ① ぬい目を短くする (R ~ 2.5mm)
- ② ぬい目を長くする (~ 4mm)

📌お知らせ

ダイヤルを R に合わせると、ぬい目の長さは約 0.8mm になります。

かがり幅を調節する

かがり幅は、かがり幅調節ダイヤルで調節します。
かがり幅は、通常 5mm で使用します。



- ① かがり幅を広くする (最大 7.5mm)
- ② かがり幅を狭くする (最小 5mm)

差動送りを調節する

⚠注意

デニムのように厚地で伸縮性のない布地をぬう場合は、差動送りをしないでください。布地を傷める原因になります。

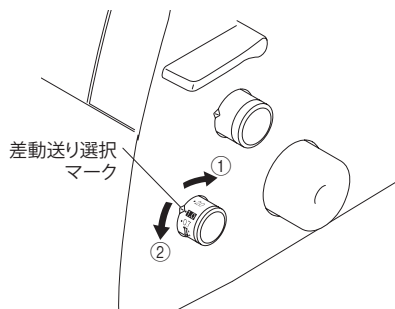
本ミシンの押えの下には、布を送るための送り歯が 2 歯備えられています。差動送りの調節とは、差動送り歯 (前方) とメイン送り歯 (後方) の布送り量を変えて、ぬい目を調節することです。

- ・差動送りを 1.0 に設定した場合：
両送り歯は同じ布送り量で動きます。
- ・差動送りを 1.0 未満に設定した場合：
差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より小さく、布を伸ばしながらぬいます。薄地のパッカリングを防止します。
- ・差動送りを 1.0 を超える数値に設定した場合：
差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より大きく、布を縮めながらぬいます。伸縮性のある布地のぬい伸びを防止します。

■ 差動送り調節

差動送り調節値	メイン送り歯 (後方)	差動送り歯 (前方)	ぬい方	使用例
0.7 ~			布を伸ばしながらぬう	薄地のパッカリング防止
1.0			通常通りぬう	通常の縁かがり
~ 2.0			布を縮めながらぬう	伸縮性のある布地のぬい伸び防止

差動送り調節ダイヤルの通常の設定は、1.0 です。
差動送りは、ミシン右側面の差動送り調節ダイヤルで調節します。



- ① 1.0 以下
- ② 1.0 以上

ぬい目をなめらかにするには、差動送りを 1.0 ~ 2.0 に調節します。

より伸縮しやすい布の場合は、差動送りが 2.0 に近くなるように調節します。

📢お知らせ

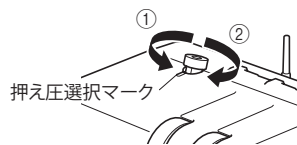
適切な調節値は、素材によって異なります。

適切な値を見つけるには、実際に試しぬいをしてください。

押え圧を調節する

押え圧は、ミシン左上の押え圧調節ねじで、ねじに表示された値を見て調節します。

通常は 2 にセットします。



- ① 圧力を弱くする
- ② 圧力を強くする

パッカリング防止や、カーブをぬうときに、押え圧を調節してください。

とても薄い布をぬうときは、押え圧を弱くします。とても厚い布をぬうときは、押え圧を強くします。

糸調子を調節する

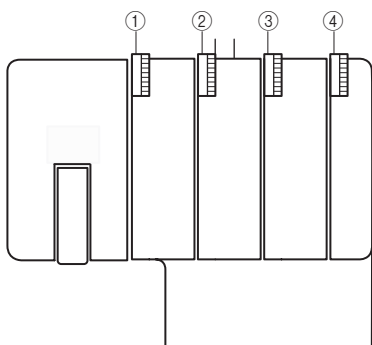
⚠注意

糸調子皿に糸が正しく通っていることを確認してください。

糸調子を調節する糸調子ダイヤルは、すべての針糸、下ルーパー糸、上ルーパー糸に対して1つずつあります。

📢お知らせ

適切な糸調子は、布地の種類や厚み、使用する糸によって異なります。糸調子は、布地や糸を変えるたびに調節してください。

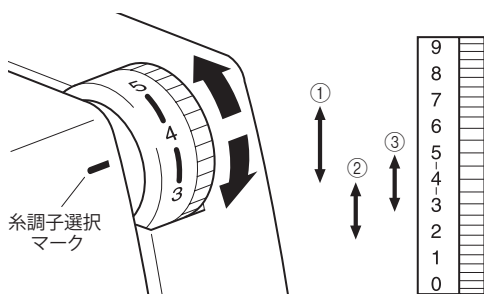


- ① 黄色：左針用糸調子ダイヤル
- ② 緑色：右針用糸調子ダイヤル
- ③ ピンク：上ルーパー用糸調子ダイヤル
- ④ 青色：下ルーパー用糸調子ダイヤル

■ 調節方法

通常、糸調子は4にセットします。(スパン糸 #60 推奨)

きれいなぬい目にならないときは、糸調子ダイヤルを使って調節します。



- ① 糸調子を強くする (4～7)
- ② 糸調子を弱くする (2～4)
- ③ 糸調子を中間にする (3～5)

糸調子を適切に調節できない場合は、本章「糸調子の調整例」を参照してください。

糸調子の調整例

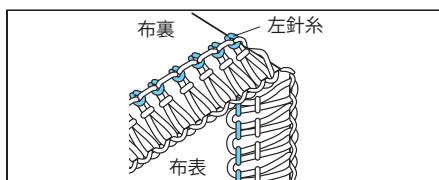
縁かがりぬいでは、ルーパー糸と針糸が以下の状態になっているのが正しいぬい目です。

- 上ルーパー糸と下ルーパー糸が布端でからみあっている
- 針糸が布表と布裏の両面から見て糸の浮きがない

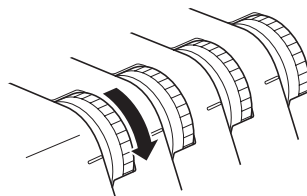
縁かがりのぬい目が正しくないときは、糸調子を調整します。

糸調子ダイヤルを 1/2 目盛りか 1/4 目盛りずつ動かし、試しぬいをしながら調整してください。

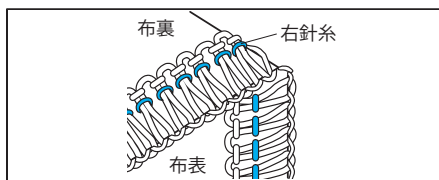
布裏で左針糸のぬい目が浮いている



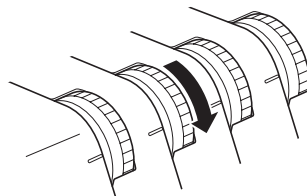
左針糸の糸調子を強めてください。



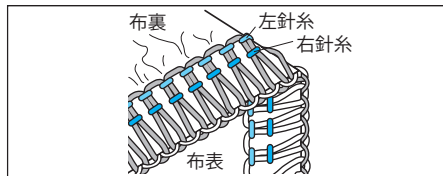
布裏で右針糸のぬい目が浮いている



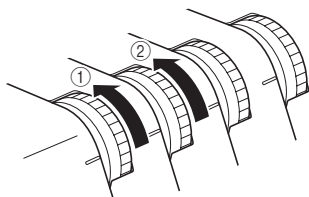
右針糸の糸調子を強めてください。



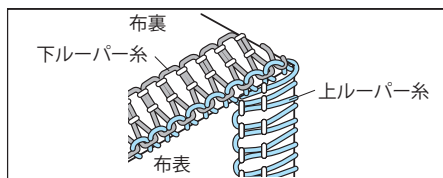
布にしわができる



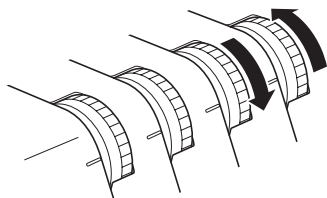
左針糸 (①)、右針糸 (②) の順番で針糸の糸調子を弱くしてください。



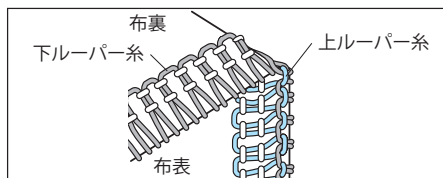
上ルーパー糸が布裏側に出ている



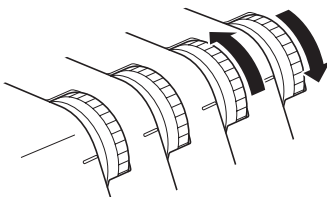
上ルーパー糸の糸調子を強める、もしくは下ルーパー糸の糸調子を弱める、または両方の調整をしてください。



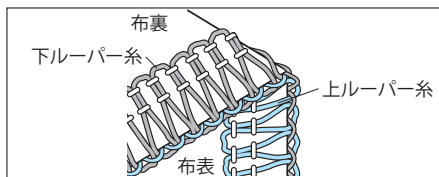
下ルーパー糸が布表側に出ている



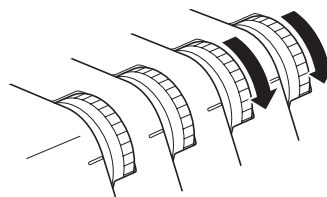
上ルーパー糸の糸調子を弱める、もしくは下ルーパー糸の糸調子を強める、または両方の調整をしてください。



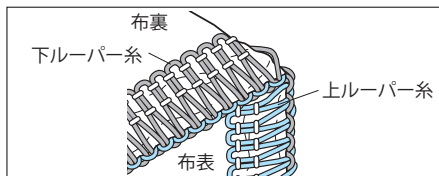
ぬい目の端から上ルーパー糸、もしくは下ルーパー糸が飛び出しているためループが大きい



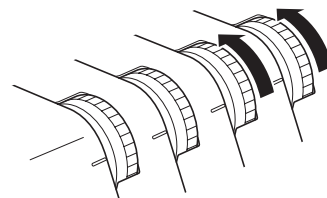
上ルーパー糸と下ルーパー糸の糸調子を強めてください。



ぬい目が盛り上がっている



上ルーパー糸と下ルーパー糸の糸調子を弱めてください。



お知らせ

糸調子の調整についての詳細は、動画にてご確認ください。



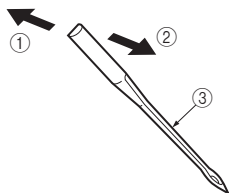
<https://s.brother/cvтка/>

ミシン針

このミシンで使用するミシン針には、別売品の HL × 5(#11 または #14) を推奨します。

■ ミシン針の見方

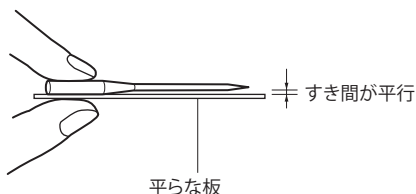
① 後ろ側 (平らな面) ② 手前側 ③ 長みぞ



■ 正しいミシン針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



🔔お知らせ

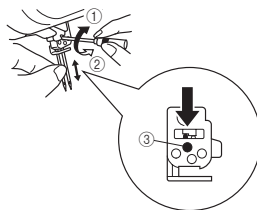
ボールポイント針をご使用いただくと、布地の織り糸切れを防ぐことができます。

ミシン針の交換

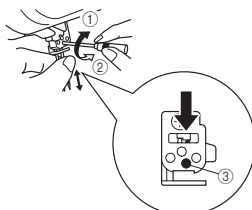
⚠️注意

- ❗ ミシン針の交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ❗ ミシン針や針締めねじを針穴に落とさないように注意してください。故障の原因になります。

左針の取り付け・取り外し



右針の取り付け・取り外し



① しめる ② ゆるめる ③ 針締めねじ

取り外し方：

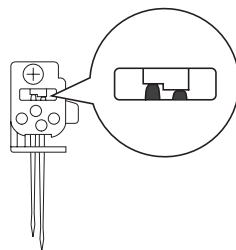
1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回して、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます (第1章「プーリーの使い方」参照)。
3. 付属のドライバーを使って、外したい針の針締めねじ③をイラストの②の方向に回してゆるめ、ミシン針を外します。

取り付け方：

1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回して、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます (第1章「プーリーの使い方」参照)。
3. 針の平らな面を後ろにして、上部が突き当たるまで完全にミシン針を差し込みます。
4. 付属のドライバーを使って、針締めねじ③をイラストの①の方向に回してしめ、ミシン針を取り付けます。

🔔お知らせ

ミシン針は完全に差し込んでください。ミシン針が正しく差し込まれると、下記イラストのように、右針が左針より少し下になります。

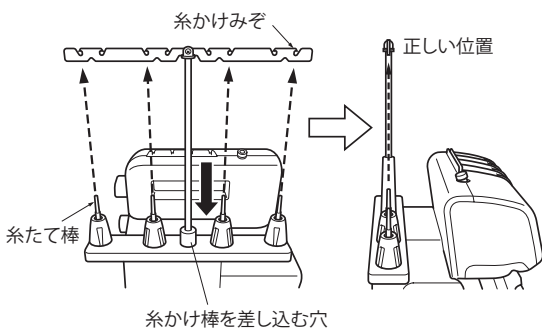


第2章 糸通しの前準備

糸かけの準備

糸かけ棒を穴の奥まで差し込みます。

差し込んだ後、糸かけを一番高い位置まで引き延ばし、ストッパーで固定されていることを確認します。図のように糸かけみぞが糸たて棒の真上にあることを確認します。



糸こまキャップ

⚠️ 注意

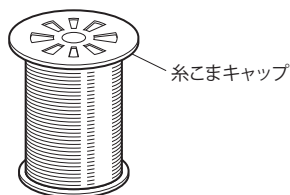
❗ こま巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを外してください。



❗ チーズ巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを使ってください。

❗ 糸こまキャップを奥までいっばいに押し込んでいないと、糸たて棒に糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

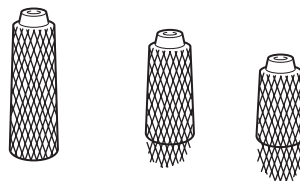
このミシンは、チーズ巻き糸と、こま巻き糸が使用できます。こま巻き糸を使うときは、スプールクッションを外し、下図のように糸止めみぞのあるほうを下にして糸たて棒にさし、必ず糸こまキャップを使います。



糸こまネット

ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。

糸こまネットは、糸こまの大きさに合わせて使用します。



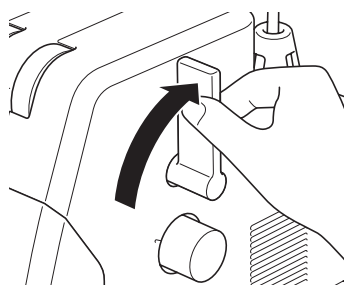
第3章 糸通し

⚠注意

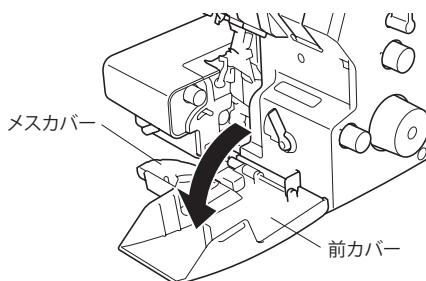
- ❗ 安全のため、糸通しをする前に必ず電源スイッチを切ってください。

ルーパー糸通しの前に

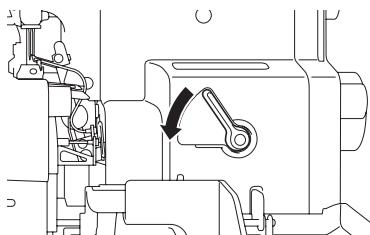
1. 押え上げレバーを上げて、押えを上げます。



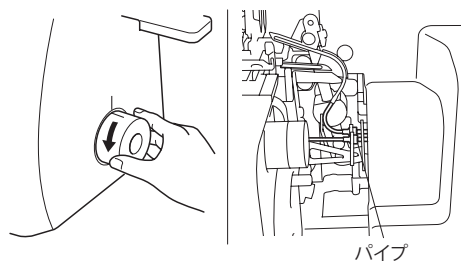
2. 前カバーとメスカバーを開けます。



3. エア糸通し切替レバーを矢印の方向に下げます。



4. パイプが連結されるまでプーリーを手前に回します。連結されるとカチャと音がします。



5. 電源スイッチのI側を押して、電源を入れます。

ルーパー糸通し時の注意

⚠注意

- ❗ エア糸通しボタンは糸通しのときのみ使用してください。
- ⊘ 糸通し以外の目的でエア糸通しボタンを使用することはお控えください。
- ⊘ ルーパー糸挿入口には糸以外（糸通し用ワイヤーは除く）を入れないでください。糸通しができなくなり故障の原因になります。
- ⊘ エア糸通しのパイプには油など液体物を付着させないでください。糸通しができなくなり故障の原因になります。
- ⊘ エア糸通しボタンを使用するときはルーパーの先端の穴をのぞきこんだり、ルーパーの先端の穴を指などでふさがないでください。
- ⊘ エア糸通し切替レバーを、パイプの連結を解除する位置に戻さないまま前カバーを無理に閉めようとししないでください。破損の原因になります。

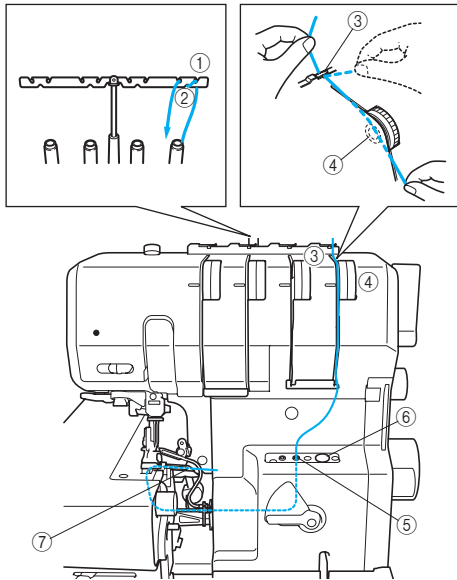
🗨お知らせ

糸の先端をはさみで切ると、ルーパー糸挿入口に挿入しやすくなります。

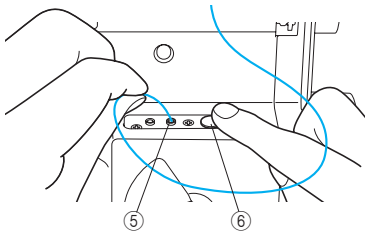
糸通しはどの糸から行ってもかまいません。

ウーリー糸や太い糸はエア糸通しで通らない場合があります。本章「エア糸通しで糸が通らない場合」を参照してください。

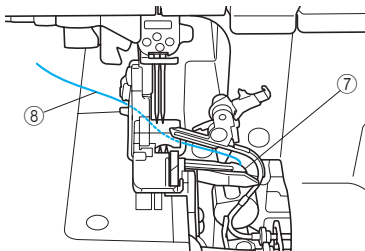
下ルーパーに糸を通す



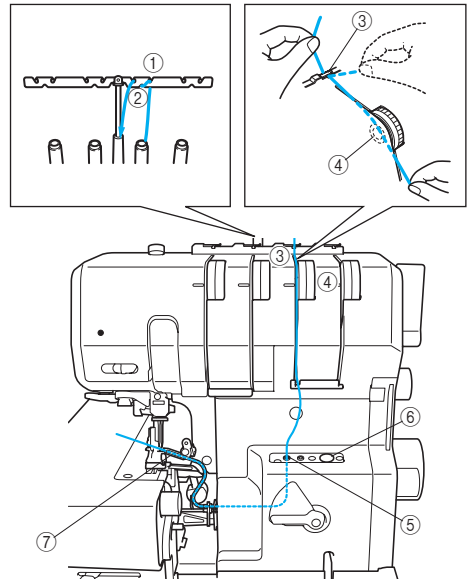
1. 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけみぞに①②の順に糸をかけます。
2. 糸をミシン上部の糸ガイド③に通します。
3. 下ルーパー用糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
4. 糸を 30 ~ 40cm 程度たるませた状態で下ルーパー糸挿入口⑤に 1 ~ 2cm 挿入して、エア糸通しボタン⑥を押します。



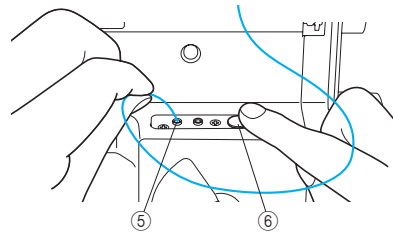
5. 下ルーパーの先端の穴⑦から糸が飛び出していることを確認します。
6. 飛び出した糸を引き出して押えの下へ入れ、押えの後ろに出します⑧。



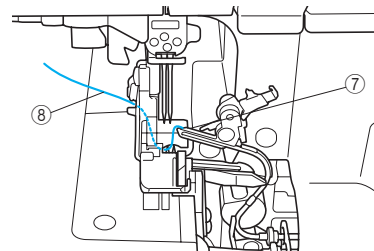
上ルーパーに糸を通す



1. 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、糸かけみぞに①②の順に糸をかけます。
2. 糸をミシン上部の糸ガイド③に通します。
3. 上ルーパー用糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
4. 糸を 30 ~ 40cm 程度たるませた状態で上ルーパー糸挿入口⑤に 1 ~ 2cm 挿入して、エア糸通しボタン⑥を押します。

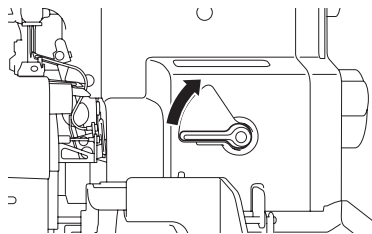


5. 上ルーパーの先端の穴⑦から糸が飛び出していることを確認します。
6. 飛び出した糸を引き出して押えの下へ入れ、押えの後ろに出します⑧。

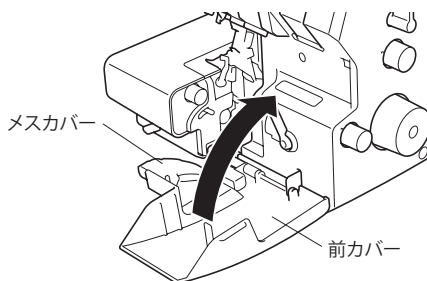


ルーパー糸通しが終わったら

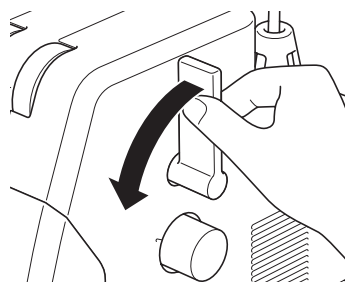
1. エア糸通し切替レバーを上げてパイプの連結を解除します。



2. 前カバーを閉めます。前カバーを閉めるとメスカバーも同時に閉まります。



3. 押え上げレバーを下げます。



お知らせ

パイプの連結を解除しないと前カバーは閉まりません。

エア糸通しで糸が通らない場合

ウーリー糸や太い糸などは、ルーパー糸挿入口に入らなかったり、エア糸通しボタンを押しても糸が通らなかったりする場合があります。

このようなときは、以下の方法で糸通しをします。

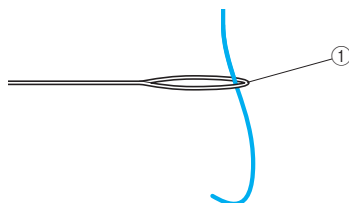
- ・ 付属の糸通し用ワイヤーを使う
- ・ 糸通しができる糸（スパン糸）を使う

■ 糸通し用ワイヤーを使う

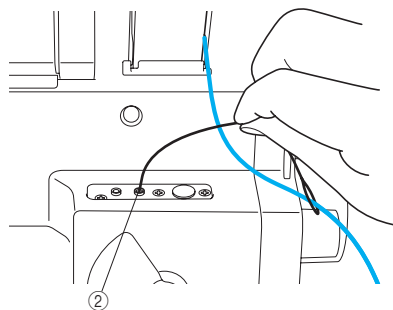
⚠️ 注意

- ❗ 安全のため、糸通しをする前に必ず電源スイッチを切ってください。
- ⊘ 糸通し用ワイヤーを使って糸通しをしている間は、エア糸通しボタンを押さないでください。故障の原因になります。

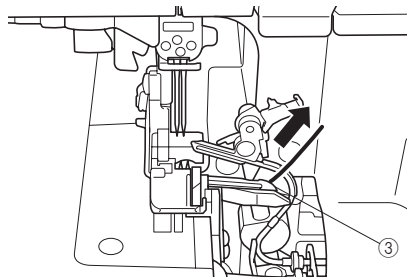
1. 糸通し用ワイヤーの輪 ① に通したい糸を 2～3cm 通します。



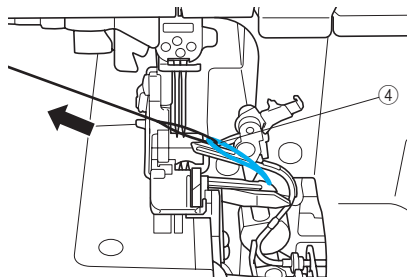
2. ルーパー糸挿入口 ② に糸通し用ワイヤーを挿入します。



3. ルーパーの先端の穴 ③ から糸通し用ワイヤーが出てくるまで手で通していきます。



4. 糸が十分出てくるまで糸通し用ワイヤーを引き出します ④。

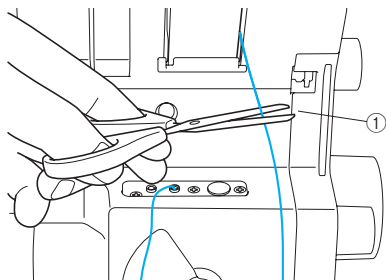


■ 既にミシンへ通してある糸 (スパン糸) を使う

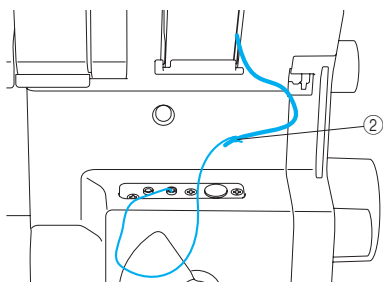
⚠ 注意

- ❗ 安全のため、糸通しをする前に必ず電源スイッチを切ってください。
- ⊘ スパン糸につなげた糸の糸通しをしている間は、エア糸通しボタンを押さないでください。故障の原因になります。

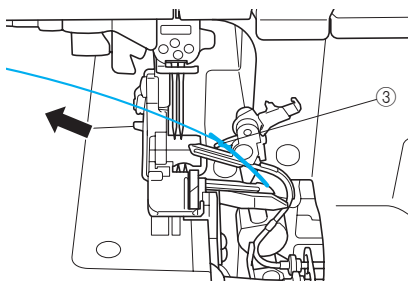
1. エア糸通しを使用して、スパン糸の糸通しをします。
2. ルーパー糸挿入口から 20 ~ 30cm のところでスパン糸を切ります ①。



3. スパン糸とつなげる糸をルーパー糸挿入口の手前まで糸通しをします。
4. 使用する糸とスパン糸を結びます ②。



5. つなげた糸が十分出てくるまで、ルーパーの先端の穴 ③ から出ているスパン糸を引き出します。

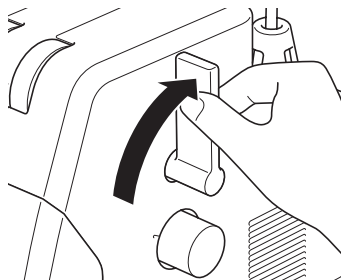


針糸の糸通し準備

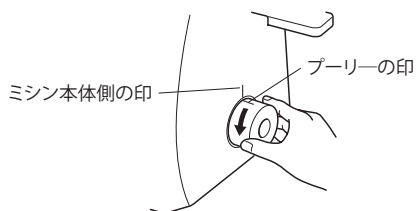
⚠ 注意

- ❗ 安全のため、糸通しをする前に必ず電源スイッチを切ってください。

1. 押え上げレバーを上げて、押えを上げます。



2. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます。

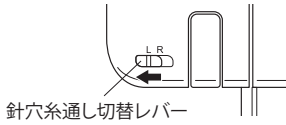


🗨 お知らせ

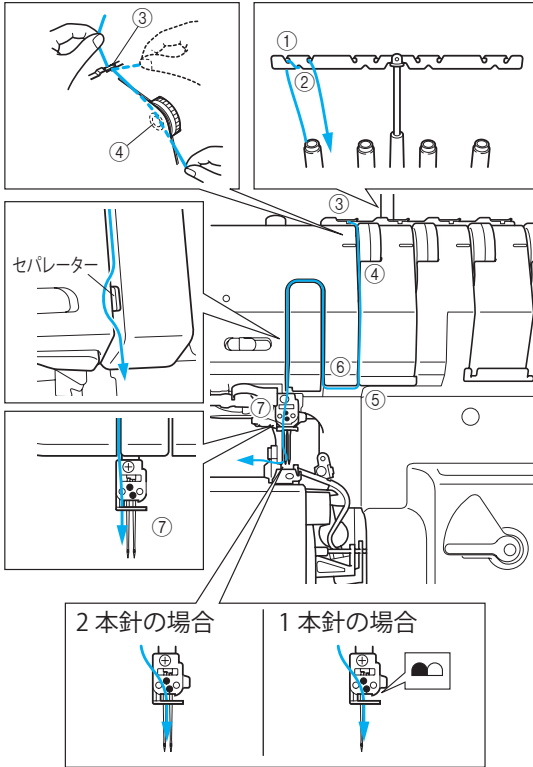
ルーパー糸通しの後に続けて針糸の糸通しを行う場合は、プーリーの印とミシン本体側の印は既に合っているため、プーリーを回す必要はありません。
電源スイッチが入っている場合は切ってください。

左針に糸を通す

1. 針穴糸通し切替レバーをLの位置にスライドさせます。



2. ミシンに黄色で示した印と番号に従って、糸を通していきます。
 - a) 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、①②の順に糸かけみぞに糸をかけます。
 - b) 糸を両手で持って糸ガイド③に通し、黄色の糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
 - c) ミシンに記された黄色の印と番号に従って⑤⑥⑦の順に糸を通します。



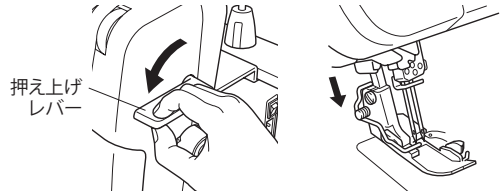
お知らせ

糸はセパレーターの左側に通してください。

■ 糸通し装置を使う

糸通し装置を使えば、ワンタッチのレバー操作で糸通しが行えます。

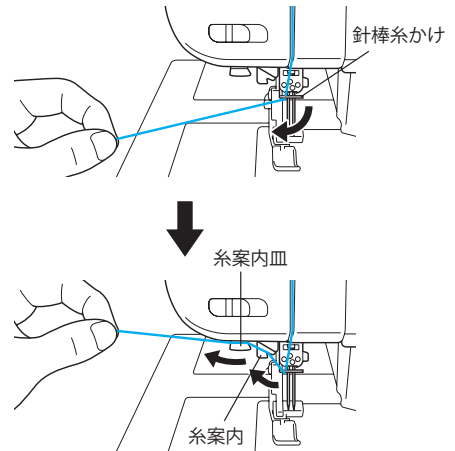
1. 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。



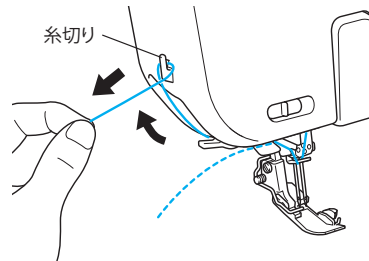
2. 針棒糸かけにかけた糸の先端を左へ引き、糸案内のミズに糸をかけます。糸案内皿のすき間に手前から奥までしっかり糸を入れます。

お知らせ

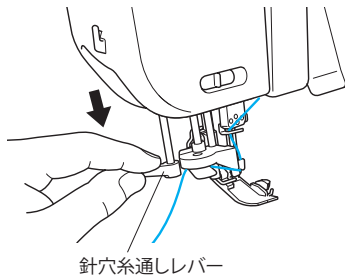
糸が糸案内のミズに確実に通っていることを確認してください。



3. ミシン左側面の糸切りに糸を引っかけて切ります。

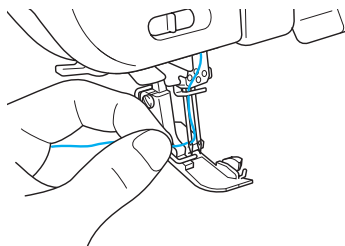


4. ミシン左側面の針穴糸通しレバーをいっぱいまで下げます。

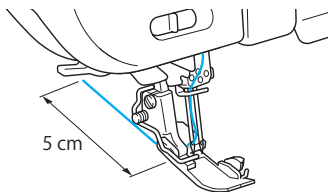


糸が針穴に通ります。

5. 針穴糸通しレバーをゆっくりと上へ戻します。
6. 針穴に通った糸の、輪になった部分を持ってゆっくりと引き、糸の先端を引き出します。

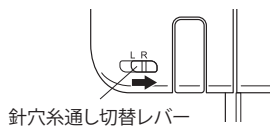


7. 押え上げレバーを上げ、糸の先端を押えの間に通し、後ろ側へ5cmほど引き出します。

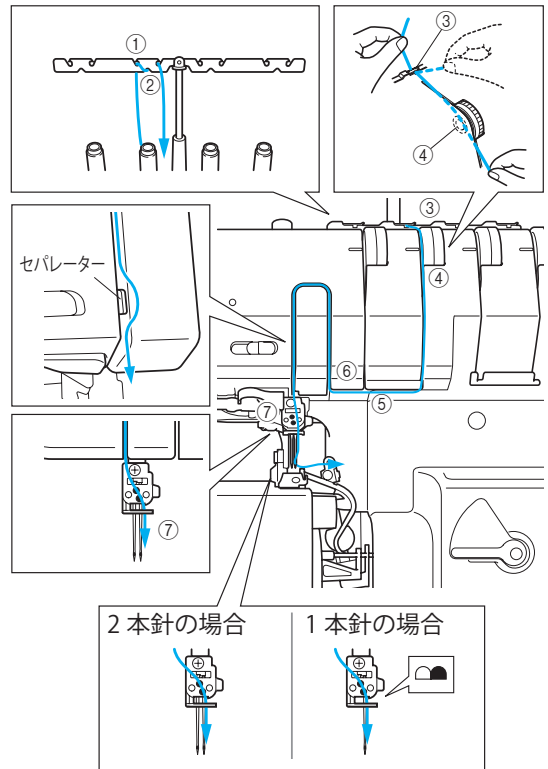


右針に糸を通す

1. 針穴糸通し切替レバーを R の位置にスライドさせます。



2. ミシンに緑色で示した印と番号に従って、糸を通していきます。
- 糸こまから糸を引き出し、後ろから前へ、①②の順に糸かけみぞに糸をかけます。
 - 糸を両手で持って糸ガイド③に通し、黄色の糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
 - ミシンに記された黄色の印と番号に従って⑤⑥⑦の順に糸を通します。



お知らせ

糸はセパレーターの右側に通してください。

糸通し装置での糸通しは、左針の糸通しと同じ手順で行うことができます。(本章「糸通し装置を使う」参照)

お知らせ

糸通しについての詳細は、動画にてご確認ください。



<https://s.brother/cvtka/>

第4章 布地、糸、ミシン針対応表

布地	ぬい目	ぬい目の長さ (mm)	糸	ミシン針
薄地 ジョーゼット ローン オーガンジー トリコット	かがりぬい	2.0 ~ 3.0	スパン糸 #80-90 綿糸 #100 フィラメント糸 #80-100	HL × 5 #11 ^{※1}
薄地 ジョーゼット ローン オーガンジー トリコット	細ロック、 巻きぬい	R ~ 2.0	針糸： スパン糸 #80-90 フィラメント糸 #80-100 ルーパー糸： ウーリー糸 スパン糸 #80-90 フィラメント糸 #80-100	HL × 5 #11 ^{※1}
普通地 ブロード ギャバジン サージ	かがりぬい	2.5 ~ 3.5	スパン糸 #60-80 綿糸 #60-80 フィラメント糸 #60-80	HL × 5 #14
普通地 ブロード	細ロック、 巻きぬい	R ~ 2.0	針糸： スパン糸 #60-80 フィラメント糸 #60-80 ルーパー糸： ウーリー糸 スパン糸 #60-80 フィラメント糸 #60-80	HL × 5 #14
厚地 ツイード デニム ニット	かがりぬい	3.0 ~ 4.0	綿糸 #50-60 スパン糸 #60 フィラメント糸 #50-60	HL × 5 #14

- ※1：・付属品(同梱品)のミシン針は #12 です。
 ・別売品のミシン針は #11 です。
 ・ミシン針は #11、#12 共に使用可能です。

お知らせ

装飾糸を使う場合は、上ルーパー糸として使うと仕上がりが美しくなります。

第5章 ぬってみましょう

⚠️ 注意

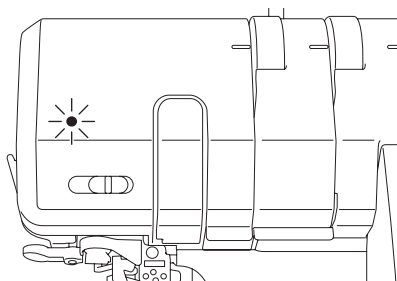
- 縫製中は針、メス、ルーパーなどの動く部分、ダイヤルやレバーなどの調節部に触らないようにしてください。
- 縫製中にカバーを開けたりしないでください。
- ミシン使用中に異常が感じられた場合はすぐに使用をやめて販売店へご相談ください。

安全装置

このミシンには、誤使用を防止するために安全装置が装備されています。

以下のときには赤色のエラー表示 LED が点灯し、ミシンが動作しません。

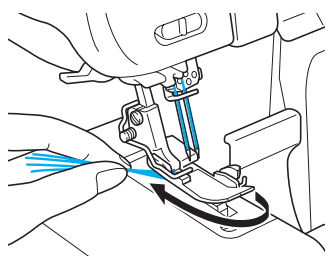
- ・ 前カバーが開いている
- ・ 布板カバーが開いている
- ・ 押え上げレバーが上がっている



試しぬいをする

実際の作品をぬう前に、試しぬいをします。

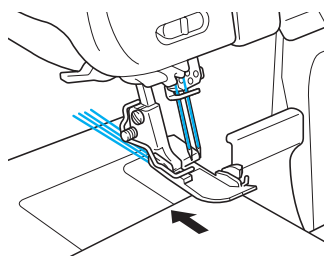
1. 糸調子をすべて「4」にセットします。
2. ミシンに糸を通し、すべての糸を 15cmほど押えの後ろへ引き出します。



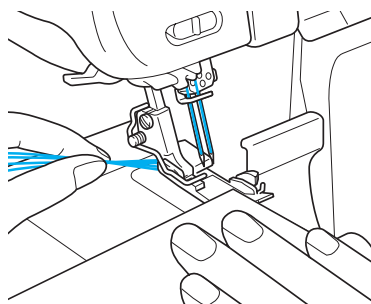
3. 電源スイッチの1側を押して、電源を入れます。
4. 押え上げレバーを上げ、試しぬい用の布をセットし、押え上げレバーを下げます。

📌 お知らせ

押えの下に布をセットするときは、必ず押えを上げた状態で行ってください。押えを上げずに布を置いただけでは、ぬうことはできません。



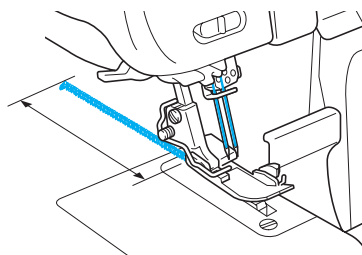
5. 左手ですべての糸をつまみ、プーリーをゆっくりと数回手前に回して糸のからみぐあいを確認してから、ゆっくりとフットコントローラーを使ってぬい始めます。



からぬいをする

試しぬいが終わったら、そのまま押えを上げずにゆっくりと 10cmほど「からぬい」(布地をぬわず、糸だけをからませること) します。

糸は自動でからみます。



📌 お知らせ

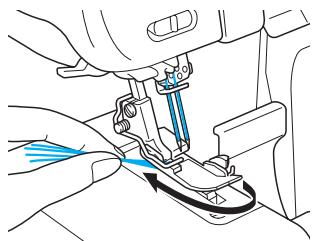
糸調子の設定が不適切だと、からぬいのぬい目が均等になりません。この場合、糸を軽く引いてぬい目を均等にしてください。また、糸通しの手順を再確認し、適正な糸調子に調節してください(第1章「糸調子を調節する」参照)。

ぬい始める

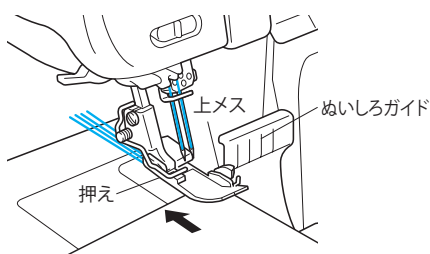
⚠注意

❌ まち針を布地に刺したままぬわないでください。メスを傷つけたり、針が折れてけがをしたりするおそれがあります。

1. ミシンに糸を通し、すべての糸を 15cmほど押えの後ろへ引き出します。

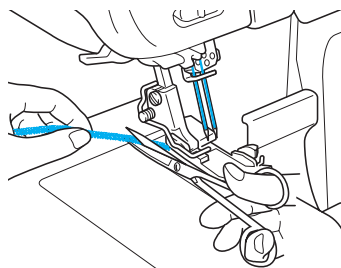


2. 押え上げレバーを上げて布をセットし、押え上げレバーを下げます。プーリーを手前に回し、ゆっくりぬい進めます。
3. 布は自動で送られますので、進行方向だけに気を付けてぬい進めます。
4. ぬい目が均一かどうか確認します。ぬい目が均一でない場合は、糸通しが手順どおり正しくできているか再確認します。
5. ぬいしろガイドを目安に、かがり幅が一定になるようにぬい進めます。ぬいしろガイドの目盛は、以下の通りです。
かがり幅調節ダイヤルを「5」にセットした状態で 9.5mm、12.7mm、15.9mm、25.4mm を示しています。



ぬい終わる

ぬい終わったら、ミシンを低速で運転し、からぬいします。布端から約 5cmのチェーンを残して布を外します。チェーンの長さが十分でないときは、糸をゆっくりと引っぱって伸ばし、はさみで切っておきます。



ぬい始めと終わりのほつれ止め

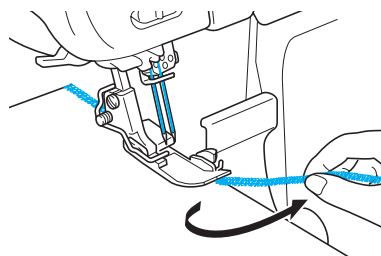
ほつれ止めをするには、4つの方法があります。

■方法1

以下の手順で、ミシンを使ってぬい始めとぬい終わりのぬい目をそれぞれ固定します。

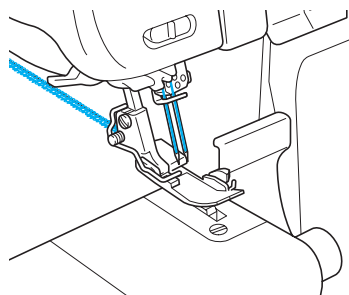
ぬい始め

1. 5cmほどからぬいした後、布地を数針ぬいます。
2. ミシンを止め、押え上げレバーを上げます。
3. 押えの下にチェーンをセットし、押え上げレバーを下げ、チェーンの上を重ねぬいします。
4. 図のように余分なチェーンを上メスで切りながらぬい進めます。

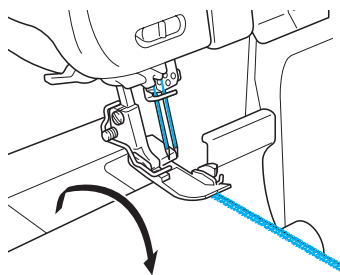


ぬい終わり

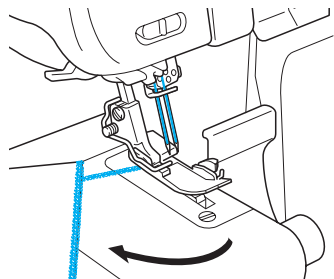
1. ぬい終わりまでできたら、布端から1針分外に針を落としてから、ミシンを止めます。



2. 押え上げレバーを上げ、ミシン針を上げます。布地を裏返します。



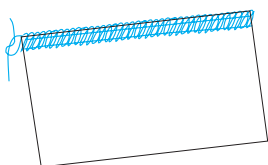
3. ミシン針を下げ、その位置で押え上げレバーを下げます。
4. ぬい目を上メスで切らないように注意しながら、ぬい目の上を重ねぬいします。
5. 数針重ねぬいしたら、布地を外します。



6. はさみで余分な糸を切ります。

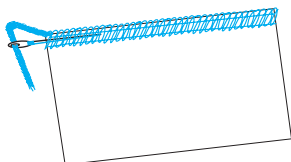
■ 方法 2

ぬい目からほどいた糸を結んで、ほつれ止めします。



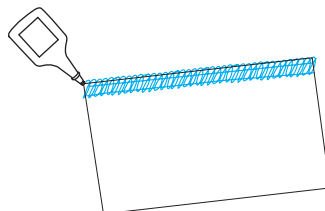
■ 方法 3

とじ針を使って、ぬい終わりのぬい目に差し込んでほつれ止めします。



■ 方法 4

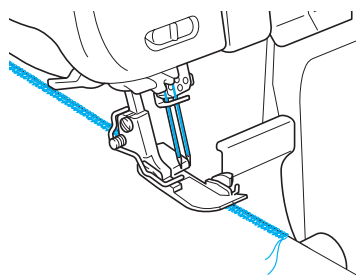
手芸用ボンドで固定して、ボンドが乾いたら余分なぬい目を切ります。



縫製中に糸切れしたとき

布を押えから外して糸を切り、再度糸通しをします(第3章「糸通し」参照)。糸切れしたところから3~5cm手前部分に布地を再度セットし、ぬい目の上を重ねぬいします。

縫製中にルーパー糸のどちらかが切れたときは、切れていない方のルーパー糸も抜いて、上下のルーパーに再度糸通しをしてください。



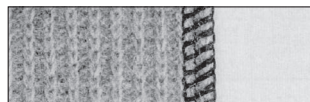
ステッチを選ぶ

実際にぬい始める前に、ステッチを選びます。

■ 4本糸縁かがり

4本の糸と2本の針を使います。

丈夫なぬい目ができます。ニットや織物をぬうのに最適です。



■ 3本糸縁かがり (5mm)

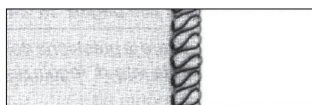
3本の糸と左針を使います。かがり幅が5mmになります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。

普通地から厚地の素材をぬうのに最適です。

🔔お知らせ

このステッチをぬうときは、右針を取り外してください。



■ 3本糸縁かがり (2.8mm)

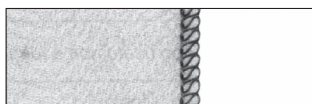
3本の糸と右針を使います。かがり幅が2.8mmになります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。

薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。

🔔お知らせ

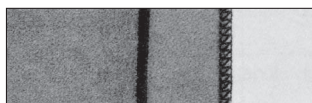
このステッチをぬうときは、左針を取り外してください。



■ 細ロックぬいと巻きぬい

細ロックぬいと巻きぬいは、布端の処理に使われることが多く、薄地や普通地の装飾ぬいに最適です。左針を外して3本の糸でぬいます。

装飾や仕上げに使います。



🔔お知らせ

このステッチをぬうときは、左針を取り外してください。

■ 2本糸縁かがり (5mm)

2本の糸と左針を使います。かがり幅が5mmになります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。

薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。



🔔お知らせ

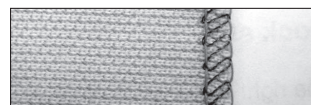
このステッチをぬうときは、右針を取り外してください。

■ 2本糸縁かがり (2.8mm)

2本の糸と右針を使います。かがり幅が2.8mmになります。

スーツやブラウス、スラックスなどに使います。

薄地から普通地の素材をぬうのに最適です。



🔔お知らせ

このステッチをぬうときは、左針を取り外してください。

細ロックぬい、巻きぬいをする

■ 細ロックぬい、巻きぬいの手順

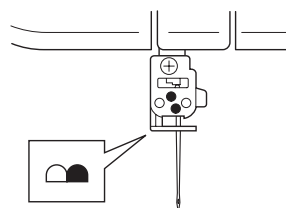
⚠️注意

❗ ミシン針の取り外し、取り付けの前には、必ず電源スイッチを切ってください。

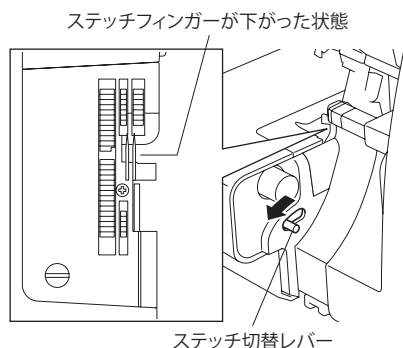
🔔お知らせ

適切な糸とミシン針については、第4章「布地、糸、ミシン針対応表」を参照してください。

1. 左針を取り外します。

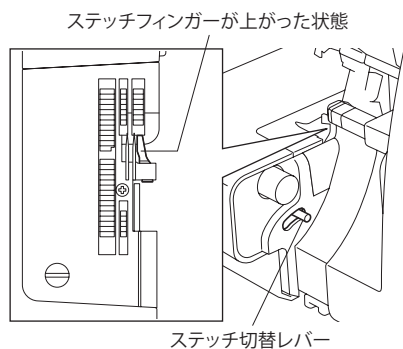


- 右針を使った3本糸縁かがり(2.8mm)ができるように糸通しをします。
- ステッチ切替レバーを手前に引いてステッチフィンガーを下げます。



お知らせ

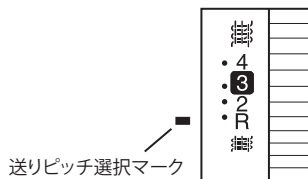
通常のかがりぬいでは、ステッチフィンガーを使用します。ステッチ切替レバーを元に戻してください。



- かがり幅調節ダイヤルをRにセットします。



- ぬい目の長さ(送りピッチ)を調節します。送りピッチ調節ダイヤルをR~2にセットします(細ロックぬいの場合:R~2、巻きぬいの場合:R)。



■ 細ロックぬい、巻きぬいの設定表

適切な布地とミシン針、針糸、ルーパー糸については、第4章「布地、糸、ミシン針対応表」を参照してください。

		細ロックぬい	
ぬい目		裏地	
		表地	
ぬい目の長さ		R (R ~ 2.0)	
かがり幅		R (R ~ 6)	
ステッチフィンガー		下げる	
糸調子		薄地用	普通地用
針糸		4 (3 ~ 5)	5 (4 ~ 6)
上ルーパー糸		5 (4 ~ 6)	6 (5 ~ 7)
下ルーパー糸		5 (4 ~ 6)	6 (5 ~ 7)
		巻きぬい	
ぬい目		裏地	
		表地	
ぬい目の長さ		R (R ~ 2.0)	
かがり幅		R (R ~ 6)	
ステッチフィンガー		下げる	
糸調子		薄地用	普通地用
針糸		5 (4 ~ 6)	5 (4 ~ 6)
上ルーパー糸		5 (4 ~ 6)	5 (4 ~ 6)
下ルーパー糸		7 (6 ~ 8)	7 (6 ~ 8)

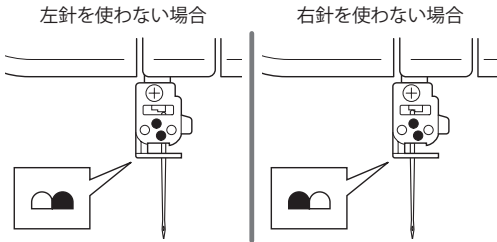
2 本糸でぬう

■ 2 本糸切替板の取り付け

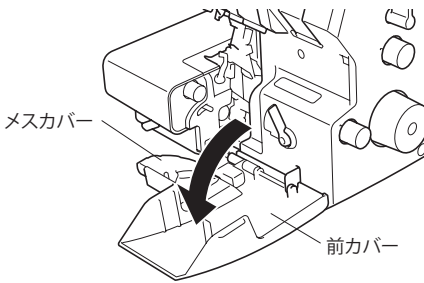
⚠ 注意

❗ 2 本糸切替板を取り付けるときは、必ず電源スイッチを切ってください。

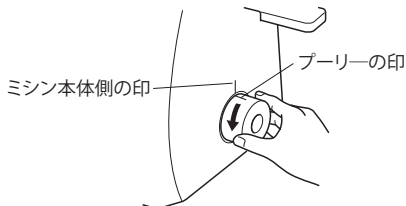
1. 使わないミシン針を取り外します。



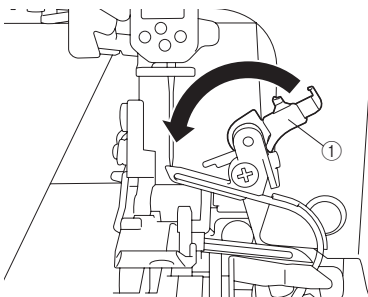
2. 前カバーとメスカバーを開けます。



3. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます。

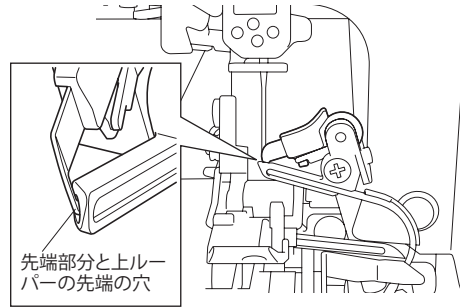


4. 2 本糸切替板を取り付けます。
2 本糸切替板の ① 部分を矢印の方向に動かし、先端を上ルーパーの先端の穴に後ろから入れます。



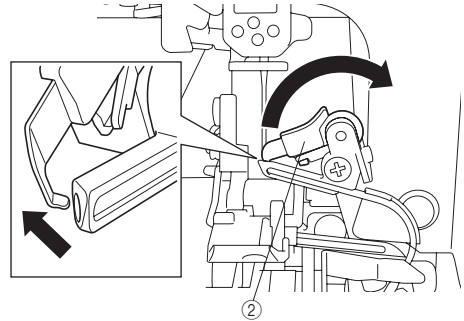
🔔 お知らせ

先端部分が上ルーパーの先端の穴に入っていることを確認してください。

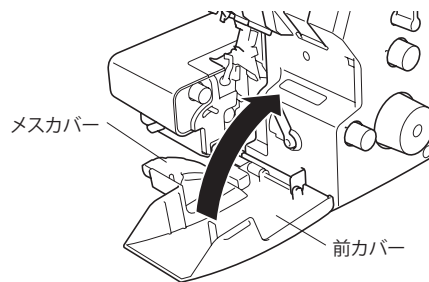


■ 2 本糸切替板の取り外し

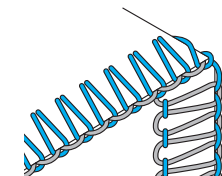
1. 2 本糸切替板の ② 部分を後ろ方向へ押して上ルーパーの先端の穴から外し、矢印の方向に動かします。



2. 前カバーを閉めます。前カバーを閉めるとメスカバーも同時に閉まります。



■ 2本糸縁かがりの設定表

ぬい目	裏地  表地	
ぬい目の長さ	3	
かがり幅	5 ~ 7.5	
ステッチフィンガー	上げる	
糸調子	薄地用	普通地用
左針糸	2 (1 ~ 3)	2 (1 ~ 3)
下ルーパー糸	6 (5 ~ 7)	6 (5 ~ 7)
右針糸	2 (1 ~ 3)	2 (1 ~ 3)
下ルーパー糸	6 (5 ~ 7)	6 (5 ~ 7)

🔔 お知らせ

縫製についての詳細は、動画にてご確認ください。



<https://s.brother/cvtka/>

第6章 困ったときは

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

不具合	原因	解決方法
1. 布を送らない	1. 糸が不必要な箇所にかからんでいる。	正しく糸通しをする。 (P.16～21 参照)
	2. 押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める。(P.11 参照)
2. ミシン針が折れる	1. ミシン針が曲がっている。または針先がつぶれている。	新しいミシン針と交換する。(P.14 参照)
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。(P.14 参照)
	3. 布地を無理やり引っ張っている。	縫製中、布地を強く押ししたり引っ張ったりしない。
3. 糸が切れる	1. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。(P.16～21 参照)
	2. 糸がからまっている。	糸こま、糸かけみぞなどを確認し、からまっている糸をほどく。
	3. 糸調子が強すぎる。	糸調子を調節する。(P.12～13 参照)
	4. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。(P.14 参照)
	5. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う。(P.14 参照) (推奨するミシン針：HL × 5)
4. ぬい目がとぶ	1. ミシン針が曲がっている。または針先がつぶれている	新しいミシン針と交換する。(P.14 参照)
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。(P.14 参照)
	3. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う。(P.14 参照) (推奨するミシン針：HL × 5)
	4. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。(P.16～21 参照)
	5. 押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める。(P.11 参照)
	6. 2 本糸切替板の先端が上ルーパーの先端の穴に入っていない。	2 本糸切替板の先端を上ルーパーの先端の穴に入れる。(P.28 参照)
5. ぬい目が均一でない	1. 糸調子が適切に調節されていない。	糸調子を調節する。(P.12～13 参照)
	2. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。(P.16～21 参照)
6. ぬい縮みがある	1. 糸調子が強すぎる。	軽量または薄手の布地をぬうときは、糸調子を弱める。(P.12～13 参照)
	2. 糸通し方法が間違っている、または糸がからまっている。	正しく糸通しをする。(P.16～21 参照)
	3. 差動送り調節ダイヤルの調節値が適切でない。	調節値を正しく合わせる。(P.11 参照)
7. 布地の切れ味が悪い	1. 刃先が磨耗している。	新しいメスと交換する必要があります。 お近くのブラザー販売店にご相談ください。
	2. メス切替レバーがメス固定の位置になっている。	メス切替レバーでメスの固定を解除する。 (P.10 参照)

不具合	原因	解決方法
8. 針穴に糸が通らない	1. 糸通しの位置が合っていない。	プーリーの印とミシン本体側の印を合わせる。(P.8 参照)
	2. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。(P.16 ~ 21 参照)
	3. 針穴糸通し切替レバーの位置が合っていない。	針穴糸通し切替レバーの位置を合わせる。(P.20 ~ 21 参照)
	4. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。(P.14 参照)
9. ルーパーに糸が通らない	1. パイプの連結を行っていない。	エア糸通し切替レバーをセットし、プーリーを手前に回してパイプを連結する。(P.16 参照)
	2. ルーパー糸挿入口に糸が十分に入っていない。	ルーパー糸挿入口に糸を 1 ~ 2cm 挿入する。(P.17 参照)
	3. ルーパー糸挿入口の手前で糸をたるませていない。	ルーパー糸挿入口手前で糸を 30 ~ 40cm たるませる。(P.17 参照)
	4. 糸がどこかで引っかかっている。	糸を引っかかっているところから外す。
	5. パイプの中に糸くずがたまっている。	付属の糸通し用ワイヤーを使って糸を通し、パイプ内の糸くずを取り除く。(P.32 参照)
	6. ウーリー糸や太い糸などルーパー糸挿入口に入れにくい糸を使っている。	糸通し用ワイヤーまたはスパン糸を使って糸を通す。(P.18 ~ 19 参照)
10. ミシンが動かない	1. 電源スイッチが入っていない。	電源を入れる。(P.8 参照)
	2. 電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込む。(P.8 参照)
	3. 押え上げレバーが上がっている。	押え上げレバーを下げる。(P.9 参照)
	4. 布板カバーか前カバー、またはその両方が開いている。	確認してカバーを閉める。(P.8、P.32 参照)

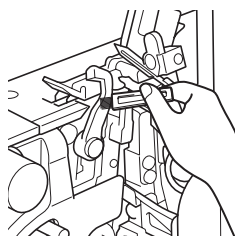
第7章 お手入れ

掃除

⚠注意

- ⚠ 掃除をするときは、事前にミシンの電源スイッチを切ってください。

ミシンを使用していると、綿ほりがたまっていきます。定期的に付属のミシンブラシを使ってほこりや糸くずを取り除いてください。

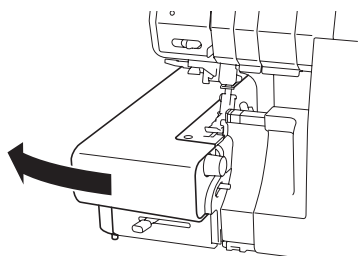


布板カバーの開け方

⚠注意

- ⚠ 布板カバーを開けるときは、ミシンの左側に十分な空間があり、人や物がないことを確認してください。
- ⊘ 布板カバーに無理な力を加えたり、持ち上げようとしたりしないでください。破損の原因になります。布板カバーを閉じるときは指や衣類など挟み込まないように注意してください。
- ⚠ 布板カバーが確実に閉められていることを確認してください。

布板カバーは矢印の方向にスライドして開けます。



エア糸通しパイプの掃除

ルーパーのパイプを掃除するときは付属の糸通し用ワイヤーを使用します。

1. パイプを連結します。(第3章「ルーパー糸通しの前に」参照)
2. ルーパー糸挿入口に糸通し用ワイヤーを挿入し、ルーパーの先端の穴から出てきたワイヤーを引き出します。(第3章「エア糸通しで糸が通らない場合」参照)

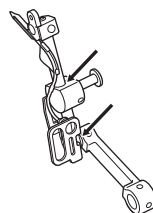
3. この作業を数回繰り返します。

注油

⚠注意

- ⚠ ミシンの電源スイッチを切ってから前カバーを開け、ミシン油を1、2滴さしてください。ミシン油は指定箇所以外にはささないでください。

なめらかで静かな作動状態を保つため、定期的に動作部分(矢印)にミシン油をさします。ミシン油は市販のものをご使用ください。



お知らせ

注油の前に、必ずミシンについている糸くず、ほこりなどをふき取ってください。

月に1、2回は、ミシンに注油してください。ミシンを頻繁に使う場合は、週に1回注油してください。

メスの交換

メスが切れなくなったときは交換が必要です。

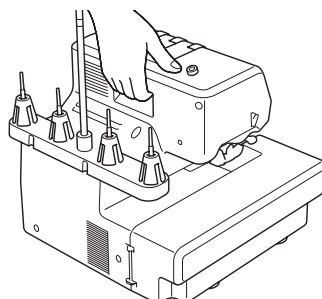
メスの交換はお買い上げの販売店にご相談ください。

持ち運び

⚠注意

- ⚠ 必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。ハンドル以外の部分を持ってミシンを持ち運ぶと落下や破損などにつながるおそれがあります。
- ⊘ フットコントローラーをトリムボックスに入れ、ミシンを持ち運ばないでください。

ハンドルを持って持ち運びしてください。



第8章 付属品／別売品の押えの使い方

⚠️ 注意

❗ 押えを交換するときは、ミシンの電源を切ってください。

用途に合わせて、以下の押えが使用可能です。ミシンに標準で取り付けられている押えと交換して使用してください。

付属品：まつりぬい押え、パイピング押え、ギャザー押え

別売品：テープ付け押え、パール付け押え

まつりぬい押え（付属品）

■ 特長

まつりぬい押えは、まつりぬいと縁かがりぬいを同時にできます。シャツの袖、パンツ・スカートの裾、ポケットなどをぬうのに最適です。

まつりぬい押えに取り付けられているガイドは、フラットロック、ピンタックなどの装飾ぬいをするときにも使用できます。

■ まつりぬい

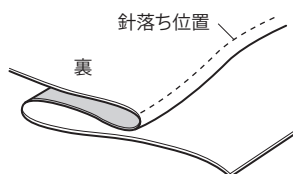
衣服の裾上げや、布製家具の装飾に使用します。パンツ・スカートの裾や、カーテンなどのひだのある布に使用してください。

推奨設定

- かがり幅：5mm
- ぬい目の長さ：3～4mm
- 左針系の糸調子：0～2
- 上ルーパー系の糸調子：5～7
- 下ルーパー系の糸調子：2～4

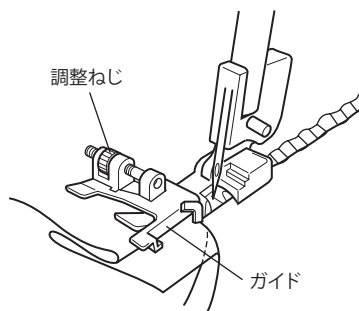
使用方法

1. まつりぬい押えを取り付めます（第1章「押えの取り外し／取り付け」参照）。
2. 右針を外して3本糸縁かがり（5mm）をするときと同じ設定にします。
3. 布を裏返し、図のように2回折ります。



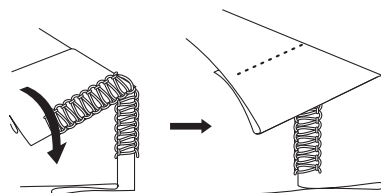
折り目にアイロンがけすると、縫製をしやすくなります。

4. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます（第1章「プーリーの使い方」参照）。
5. 押え上げレバーを上げて折り山が左側になるように布をセットし、折り山上にぬい目ができるようにします。
6. 押えのガイドに折り山を合わせ、押え上げレバーを下げます。
7. 押えのガイドの位置を、調整ねじを回して針が折り山に少しだけかかるように調整します。調整幅は布の厚さによって変わります。調整ねじを手前に回すと、ガイドが右に動きます。調整ねじを向こう側に回すと、ガイドが左に動きます。



押えのガイドの位置を調整するときは、同じ素材の布地で試しぬいするのがおすすめです。

8. 布を手で押さえながら、針が折り山に少しだけかかるようにぬい進めます。
9. 図のように布を開きます。



布と同じ色の細糸を使用すると上手にできます。上手にできた場合は、布の表面から見たときにぬい目がほとんど見えません。

■ フラットロック

装飾や仕上げに使います。

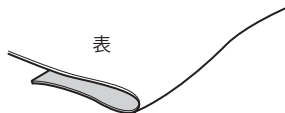
ぬい上がった布を引っ張ると、ぬい目は糸が細かくジグザグに走っているように仕上がります。

推奨設定

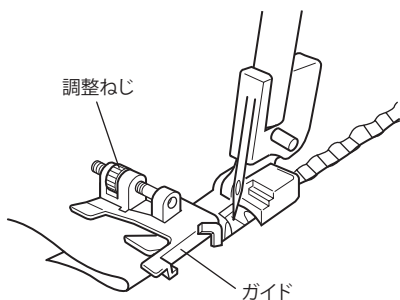
- かがり幅：5mm
- ぬい目の長さ：2～4mm
- 左針系の糸調子：0～3
- 上ルーパー系の糸調子：2～5
- 下ルーパー系の糸調子：6～9

使用方法

1. まつりぬい押えを取り付けます（第1章「押えの取り外し／取り付け」参照）。
2. 右針を外して3本糸縁かがり(5mm)をするときと同じ設定にします。
3. 布を図のように折ります。



4. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせてください（第1章「プーリーの使い方」参照）。
5. 押え上げレバーを上げて折り山が左側になるように布をセットし、折り山上にぬい目ができるようにします。
6. 押えのガイドに折り山を合わせ、押え上げレバーを下げます。
7. 押えのガイドの位置を、調整ねじを回して針が折り山の2.5～3.0mm内側になるように調整して、ぬい目の端が少しだけ折り山をこえるようにします。

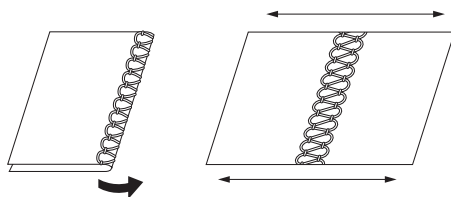


調整ねじを手前に回すと、ガイドが右に動きま
す。調整ねじを向こう側に回すと、ガイドが左に
動きま

す。押えのガイドの位置を調整するときは、同じ素材
の布地で試しぬいするのがおすすめです。

8. 布地を手で押さえながら、折り目に沿って一定の
速度でまっすぐにぬい進めます。

9. ぬい終わったらぬい目を開きます。



表裏どちらのぬい目も、表面として使用すること
ができます。裏面どうしを合わせてぬった場合、
上ルーパー糸が表面の装飾になり、表面どうし
を合わせてぬった場合、針糸が表面の装飾にな
ります。

お知らせ

フラットロックは薄地をぬうことに適していません。

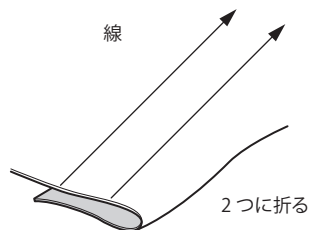
■ ピンタック

布に細いひだを付ける装飾のことです。

上ルーパーに目立つ糸を使用すると、よいアクセ
ントになります。

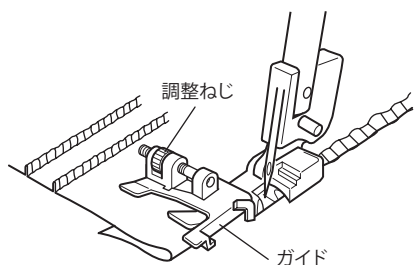
使用方法

1. まつりぬい押えを取り付けます（第1章「押えの
取り外し／取り付け」参照）。
2. ミシンを細ロックぬいをするときと同じ設定にし
ます（第5章「細ロックぬい、巻きぬいをする」
参照）。
3. 折り山になる位置にチャコペンで線を引きます。
折り山は等間隔にします。
線に沿って、アイロンで軽く折り目を付けます。

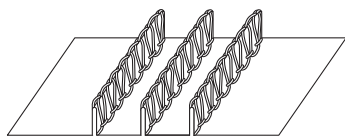


4. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本
体側の印に合わせてください（第1章「プーリーの使
い方」参照）。
5. 押え上げレバーを上げて折り山が左側になるよ
うに布をセットし、折り山上にぬい目ができ
るようにします。
6. 押えのガイドに折り山を合わせ、押え上げレバ
ーを下げます。
7. 押えのガイドの位置を、ステッチフィンガーの右
端に合うように調整します。
調整ねじを手前に回すと、ガイドが右に動き
ま。調整ねじを向こう側に回すと、ガイドが左に
動きま

8. 折り山をガイドに合わせて、布を針位置まで入れ込みます。



9. 針と上メスの間に折り山をセットして、ぬい進めます。
10. 最後までぬい進めます。

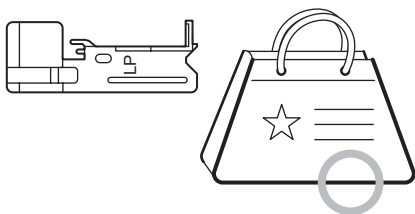


布にしわができていたら、手で修正してください。

パイピング押え (付属品)

■ 特長

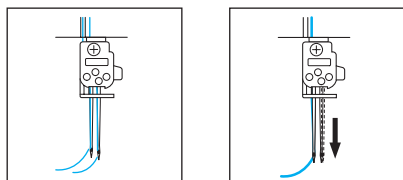
パイピング押えは、布地の縁にパイピングを付けることができます。パジャマやスポーツウェア、家具のカバー、クッション、バッグなどの縁かざりにします。



■ 準備

パイピング押えを取り付けます (第1章「押えの取り外し/取り付け」参照)。

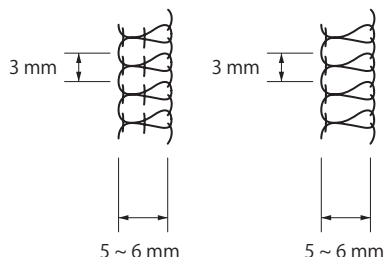
■ ミシンの設定 (ぬい目の種類)



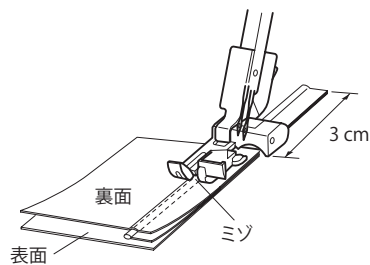
- 2本針 4本糸縁かがり
- 左1本針 3本糸縁かがり (右針は取り外します)

■ ミシンの調整

1. ぬい目の長さを 3mm (通常的位置) に調節します。
2. かがり幅を 5~6mm に調節します。
3. 糸調子を通常の縁かがりと同様に調節します (第5章「ステッチを選ぶ」参照)。



■ 布とパイピングテープのセット方法



1. 表面が内側になるように2枚の布を重ね、パイピングテープを2枚の布の間に挟み、図のように2枚の布の縁の位置を合わせます。パイピングテープは、布から3cm出してください。
2. パイピングテープがパイピング押えのミソにはまるように布をセットします。

■ めい始める

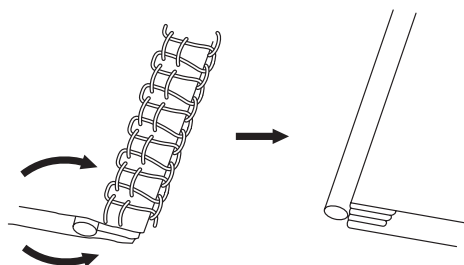
1. パイピングテープと布がずれないように、手で押さえながらめい進めます。
2. めい終わったら、布の表面を外側にします。

🔧お知らせ

めい進める前に、布とパイピングテープを仮めいすることをおすすめします。

パイピングを鋭角に曲げてめうのは難しいです。

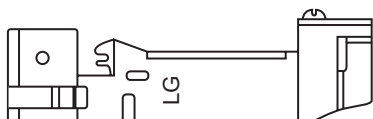
幅広のパイピングテープの場合は、テープをあらかじめ適切な幅にカットして取り付けてください。



ギャザー押え (付属品)

■ 特長

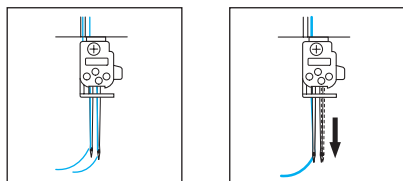
ギャザー押えは、スカートやカットソー、ブラウスなどの衣服や、小物にギャザーを寄せることができます。



■ 準備

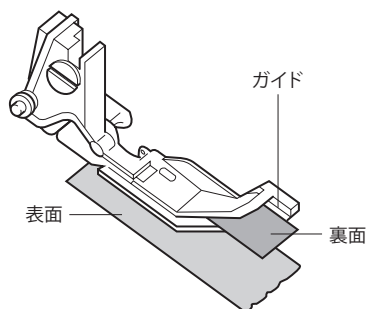
ギャザー押えを取り付けます (第1章「押えの取り外し/取り付け」参照)。

■ ミシンの設定 (めい目の種類)



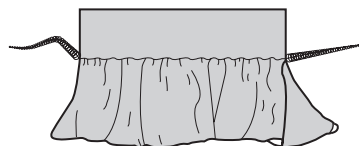
- 2本針 4本糸縁かがり
- 1本針 3本糸縁かがり (左右どちらの針でも可)

■ 布のセット方法



1. 押え上げレバーを上げます。
2. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせてます (第1章「プーリーの使い方」参照)。
3. 布の表面 (ギャザーを寄せる面) を図のようにガイドの下にセットします。
4. 布の裏面をギャザー押えとガイドの間にセットします。
5. 押え上げレバーを下げます。

■ 試しめい



1. めい目の長さを 3mm に調節します。
2. 差動送りを 2 に調節します。
3. かがり幅を 5mm に調節します。
4. 他の設定を、通常の縁かがりと同様にします。
5. 布をガイドに沿わせた状態でめい進めます。
 - ひだの間隔は、めい目の長さを 2 ~ 4mm に変更することで調整できます。
 - ひだの高さは、差動送りを 1.0 ~ 2.0 に変更することで調整できます。

🔧お知らせ

めい進めている間は、布を引っ張ったり伸ばしたりしないでください。

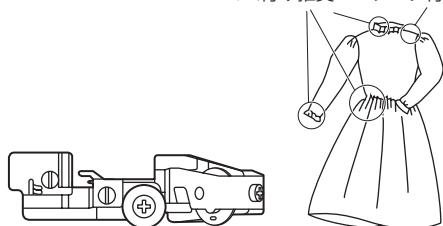
テープ付け押え (別売品)

■ 特長

テープ付け押えは、ニット製品などへの伸び止めテープ付けや、袖口のゴムテープ付けに最適です。

- 幅6～12mmのテープやゴムをぬい付けることができます。
- テープ付けは、ニット製品などの伸縮素材の肩部分の補強に適しています。ゴム付けは、袖や襟などをぬうのに適しています。

ゴム付け推奨 テープ付け推奨

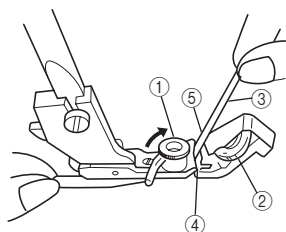


■ ミシンの設定 (ぬい目の種類)



- 2本針4本糸縁かがり
- 1本針3本糸縁かがり (左右どちらの針でも可)

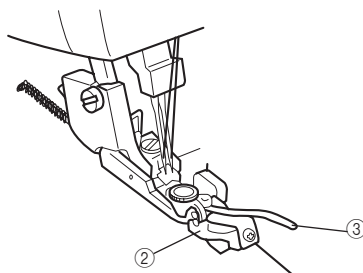
■ テープ／ゴムのセット方法



1. テープ付け押えを取り付けます (第1章「押えの取り外し／取り付け」参照)。
2. 押え上げレバーを上げます。
3. プーリーを手前に回し、プーリーの印をミシン本体側の印に合わせます (第1章「プーリーの使い方」参照)。
4. テープガイド①を開き、押えの調整ダイヤル②を0にします。
5. テープまたはゴム③をスロット④に配置します。
6. テープまたはゴムの右側がガイド⑤に沿うように、テープまたはゴム③をスロット④に挿入します。

7. テープガイド①がテープまたはゴムの左側になるようにセットして、テープガイドを閉じます。

■ 試しぬい



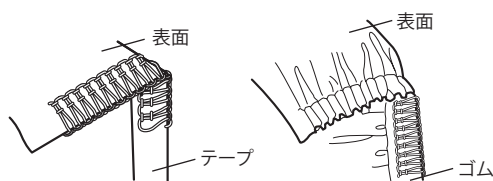
1. 押え上げレバーを上げます。
2. 端が上メスにあたるように布をセットします。
3. 押え上げレバーを下げます。
4. かがり幅調節ダイヤルを5にします。
5. 送りピッチ調節ダイヤルを以下のように調整します。
 - テープ：3～4
 - ゴム：4
6. テープ付け押えにある、押えの調整ダイヤル②を以下のように調整します。
 - テープ付け：0
 - ゴム付け：お好みのしわ具合に合わせて調整

📌 お知らせ

テープ付け押えの調整ダイヤルの数字を大きくすると、しわが多くなります。

7. 試しぬいをして、糸調子を調整します。

適切なぬい目の例：



📌 お知らせ

テープ付けの場合、糸調子は通常の縁かがりと同様です。

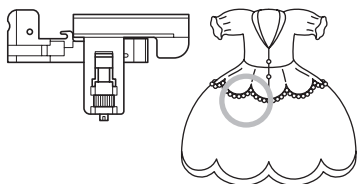
下ルーパーと上ルーパーの糸調子を強めにすると、上手に仕上がります。

また、素材や糸によってしわのでき方が異なるので、事前に試しぬいすることをおすすめします。

パール付け押え (別売品)

■ 特長

パール付け押えは、パールやビーズなどをぬい付けることができます。カーテンやテーブルクロス、ドレスの装飾に使用します。3～5mm のパールやビーズなどをぬい付けることができます。

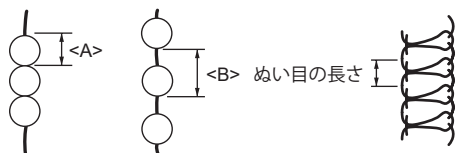


■ 準備

1. プーリーを手前に回して上メスを一番下の位置にし、上メスを固定します (第1章「プーリーの使い方」および第1章「上メスの固定/固定の解除」参照)。
2. パール付け押えを取り付けます (第1章「押えの取り外し/取り付け」参照)。
3. 右針を外して3本糸縁かがり(5mm)をするときと同じ設定にします。

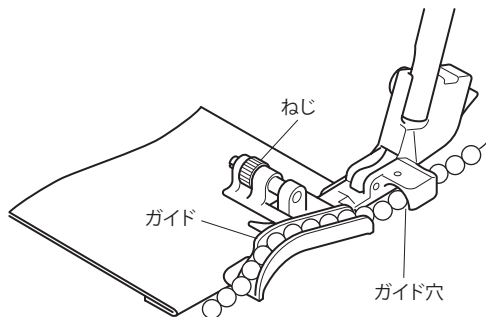
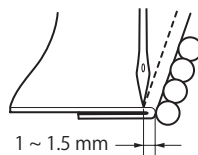
■ ミシンの調整

1. ぬい目の長さを <A> または の長さに調整します。
例えば、<A> または が 4mm のとき、ぬい目の長さを 4mm にします。



2. かがり幅を 3～5mm に調節します。
3. 糸調子を以下のように調節します。
 - ・ 左針糸：少し弱め
 - ・ 上ルーパー糸：少し弱め
 - ・ 下ルーパー糸：少し強め

■ 布とパールのセット方法



1. 布をパール付けする場所に沿って折ります。
2. 針落ち位置が折り山になるように、折り山をガイドに沿わせてセットします。
3. ねじを回して、折り山と針の間が 1～1.5mm にします。
4. パールまたはビーズの先端をガイド穴の手前にもってきて、ガイドにはわせます。

■ 試しぬい

1. パールまたはビーズがガイド穴を通るまで、プーリーを手前に回して手でぬいめます。
2. 布とパールまたはビーズを手で送りながら、ゆっくりぬい進めます。
3. ぬい終わったら、糸の両端を結びます。

■ お知らせ

小さいパールまたはビーズを付ける場合、糸調子が弱くなってしまうことがあります。そのようなときはスッチフィンガーを下げると改善することがあります。

仕様

ぬい速度	最速 1,200 針／分
かがり幅	2.8mm ～ 7.5mm
ぬい目の長さ	R.2mm ～ 4mm
押えが上がる高さ	5mm ～ 6mm
ミシン針	HL × 5
対応糸数とミシン針数	2 本糸／ 3 本糸／ 4 本糸 2 本針／ 1 本針
製品質量	9.8kg
ミシン寸法	幅 37.0cm × 奥行 35.5cm × 高さ 40.5cm
電源	AC100V 50/60Hz
定格電圧／消費電力	AC100V / 79W
ライト	白色発光ダイオード

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

ミシン設定メモ

布	糸	ミシン針	糸調子				備考 ぬい目の種類
			左針	右針	上 ルーパー	下 ルーパー	

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(マシン 119 番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室(マシン 119 番)」にご相談ください。

■ お客様相談室(マシン 119 番)

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合はお買い上げの販売店または「お客様相談室(マシン 119 番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市長区瑞穂区苗代町 15-1

お客様相談室(マシン 119 番) Tel: 0570-061-134

お問い合わせ窓口 <https://s.brother/crgka/>

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日



- お客様相談室(マシン 119 番)は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
マシン背面の定格ハリマーク(銀色シール)の下記部分をご確認ください。



- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<https://www.brother.co.jp/>

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<https://s.brother/cptaa/>



別売品に関する情報は <https://s.brother/cotka/> をご覧ください。

